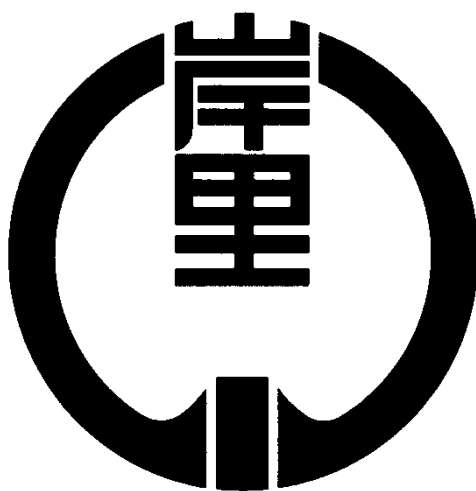


令和6年度 研究紀要

すべての児童が「わかる」「できる」「楽しい」を
実感できる授業をめざして

～国語科における基礎的・基本的な知識・技能の

定着を図るための指導方法の工夫～



令和7年3月

大阪市立岸里小学校

目 次

はじめに

I 研究の主旨

1. 研究主題	3
2. 研究主題設定の理由	3
3. 研究の組織	6
4. 研究の予定	7
5. 研究の基本的な考え方	8

II 各学年の実践

1 年 国語 「 おとうとねずみ チロ 」	13
2 年 国語 「 お手紙 」	21
3 年 国語 「 サーカスのライオン 」	29
4 年 国語 「 暮らしの中の和と洋 」	35
5 年 国語 「 新聞記事を読み比べよう 」	41
6 年 国語 「 風切るつばさ 」	49
特別支援学級 国語 「 大造じいさんとがん 」	57

III 1 年間の成果と今後の課題

1. 学力経年調査等の結果	67
2. 1 年間の児童の様子からどんな力をつけたいか	67

はじめに

本校では、『すべての児童が「わかる」「できる」「楽しい」を実感できる授業をめざして～国語科における基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための指導方法の工夫～』と研究主題を設定して、研究活動を進めてまいりました。

昨年度は、『すべての児童が「わかる」「できる」「楽しい」を実感できる授業をめざして～学力の定着と学び手の視点に立った授業改善～』として、国語・算数・社会において、学力向上と授業改善を中心に据え、研究活動に取り組みました。

今年度は、昨年度の研究を踏まえ、国語科を研究教科の対象とし、確かな学力向上に向けて、「わかる授業」の実現のための授業作りに取り組んでまいりました。それは、国語科の取り組みが「知的活動の基盤」「感性・情緒等の基盤」「コミュニケーション能力の基盤」になると考え、国語科の基礎を確実に身に付けさせ、他教科でも応用できるようにすることが大切であると考えたからです。「下位層の児童の学習意欲を高めたい」「学力を定着させたい」「学校全体で取り組んで解決したい」という思いを大切にして、研究の充実に努めてまいりました。各種学力調査の結果等を見ても、まだまだ研究活動は取り組みの道半ばではありますが、学習内容の定着に向けて、全教職員で相談・連携し、きめ細やかな指導を進め、チーム学校としての取り組みから見えてきた成果と課題を実感しております。

ここにささやかではありますが、本校の研究の取り組みの一端をまとめさせていただきました。ご高覧いただき、ご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、ご指導ご助言を賜りました、大阪市教育センター・スクールアドバイザー 柴山 雅由先生、指導主事 山内 隆史先生に厚くお礼申し上げます。

令和7年3月 大阪市立岸里小学校

校長 大無田 信教

I 研究の主旨

1. 研究主題

すべての児童が「わかる」「できる」「楽しい」を実感できる授業をめざして
～国語科における基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための指導方法の工夫～

2. 研究主題設定の理由

本校では、3年前の学力経年調査で、どの学年も正答率が大阪市の平均もしくは下回っている教科があり、総合正答率の割合で7割以下が20%以上になる教科が見られた。また、低学年においても学力調査テストで全国の平均点を下回っているクラスもあったことから、学力向上が最も重要な課題の一つとなっていた。そこで、2年前より『すべての児童が「わかる」「できる」「楽しい」を実感できる授業をめざして～学力の定着と学び手の視点に立った授業改善～』という主題・副題を設定し、教科は限定せず、①学力向上②授業改善に向けて研究を進めてきた。昨年度は、国語科と算数科に重点を置き研究を重ねた。その結果、学力経年調査では、ほとんどの学年で標準化得点に達し、平均正答率の7割以下の児童が各教科減った。平均正答率が年々上がり、成果が見られるようになってきた。しかし、大阪市の平均より下回っている学年・教科もあり、課題も見受けられる。

以下が、昨年度の研究により表れてきた課題である。

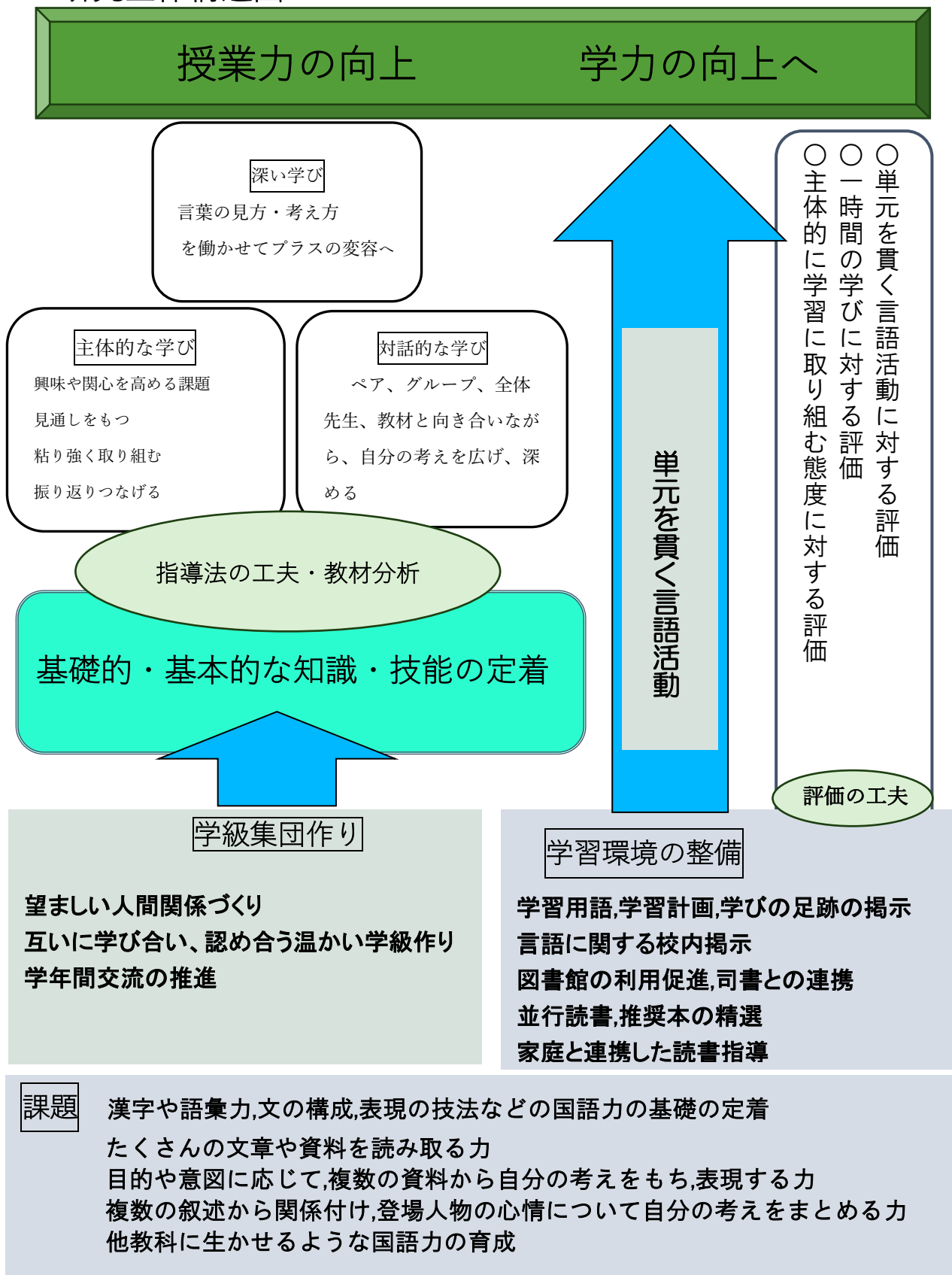
- ▲国語の予備テストでは、資料を読み取ったり整理したり、筆者の伝えたいことをまとめたりすることにとまどっている児童がほとんどで、そのスキルを向上させる必要がある。
- ▲情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げて書く力に課題がある。
- ▲算数では、資料から読み取ったことを書くところに課題があった。
- ▲どの教科も点数の良かった児童と悪かった児童の点差が大きかった。
- ▲全教科活用の部分では、文章を細かく読み取ることが難しかったのか、間違いが目立った。全体的に、文章を読み取ることが課題である。
- ▲国語では説明文の読み取り、算数では分数のかけ算わり算の活用問題の誤答が目立つ。
- ▲どの教科の問題も後半無回答が多く、時間がたりてない児童が多かったと思われる。

- ▲国語科では,中学年は叙述をもとに段落の内容を理解したり,段落の相互関係を捉えたりする問題に課題がある。高学年は、情報と情報の関係について理解する問題に課題がある。
- ▲「算数の勉強は好きですか」の項目が国語社会理科外国語に比べてどの学年も少し低くなっている。
- ▲授業の中で「ふりかえり」が少なくなっている。
- ▲漢字の定着,九九,計算な繰り返し学習による基礎基本の定着。
- ▲文章を読んで自分で解決していく力を身に付けさせたい。
- ▲文を読んで図に表す際,どんな図になるのか自分自身でイメージして読みとる力を身につけさせたい。
- ▲既習のものを授業の初めに振り返らせ,学習内容に生かす必要がある。
- ▲自分の考えを書く時には,問題の見通しをもとに,文や図であらわせられるようにしたい。
- ▲ていねいに読んでいないので間違ふことがある。問題文を読み取る力が必要である。
- ▲友達の考えも聞くことで,自分の考えをさらに深めることができるようにしたい。
- ▲自分の考えを伝えるために話す活動を取り入れたい。

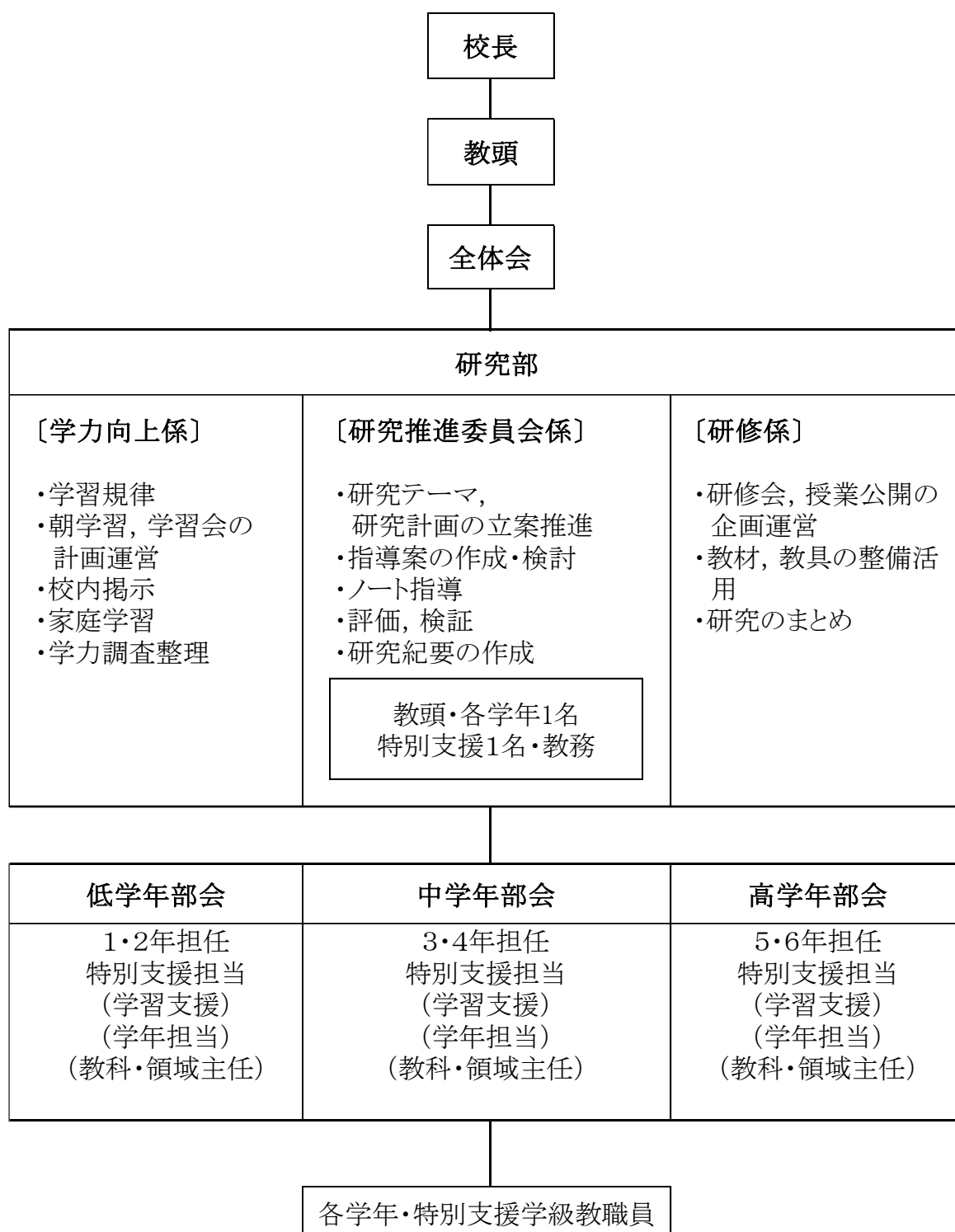
以上のことから、確かな学力向上に向けて、「わかる授業」の実現のための授業作りを引き続き行いたい。今年度は、国語が「知的活動の基盤」「感性・情緒等の基盤」「コミュニケーション能力の基盤」になると考え、国語科の教育を学校教育の中核に据えて、国語力の基礎を確実に身に付けさせ、他教科でも応用できるようにすることが大切であると考えた。そこで、初年度のテーマとして、『すべての児童が「わかる」「できる」「楽しい」を実感できる授業をめざして～ 国語科における基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための指導方法の工夫』と設定した。「下位層の児童の学習意欲を高めたい」「学力を定着させたい」「学校全体で取り組んで解決したい」という思いを引き続き持ち、本校のめざす子ども像「自ら意欲的に学び、深く考え、判断する子」に近づけたい。

研究を進める際には、「聞く」「話す」「読む」「書く」という言語活動の「繰り返し練習」により、国語力の基礎となる知識を確実に身に付けさせることが重要であると考え。特に、「読み」の学習を先行させることで、言葉の知識（特に「語彙力」）を増やすことに重点を置き、国語力を向上させたい。さらに、研究主題である、すべての児童が「わかる」「できる」「楽しい」を実感できる授業をめざし、「実態の的確な把握」や「指導法の改善」など目標を明確にした具体的な指導内容を設定し、一人ひとりを大切にしたい授業実践に努める。子どもたちの国語力を向上させるためには、すべての教員の国語力を高める必要があり、国語力に着目した研究の充実を図っていきたいと考える。

研究全体構造図



3. 研究の組織



4. 研究の予定

月	研究項目	内容	その他
4	○研究推進委員会	・今年度の方向性，研究主題・副題提案 ・研究内容の検討 研究計画の作成 ・授業研究等活動計画の作成 (「学力経年調査」「学力調査」の課題分析) ・討議会の持ち方	K Y P
5	○全体会 ○効果検証授業 (5－2)	・研究主題・副題・内容の検討 ・重点等の確認 ・学力向上に向けての具体的方策の確認 ・教材教具の整理 ・指導案の形式検討，討議会の持ち方	
6	○指導案検討会 (6年) ◎授業研究(6年)		
7	○指導案検討会 (5年)		
8			
9	◎研究授業(5年) ○指導案検討会 (3年)		
10	◎研究授業(3年) ○指導案検討会 (4年)		
11	◎研究授業(4年) ○指導案検討会 (1年)		
12	◎研究授業(1年)		
1	○指導案検討会 (2年)		
2	◎研究授業(2年)	・研究のまとめ作成 ・「学力経年調査」「学力調査」等の分析)	
3	○研究推進委員会	・来年度の研究構想	

5. 研究の基本的な考え方

(1) 学力向上の取り組みを取り入れた日常の学習活動

- ① **学びの基盤作り** ➡ 学習の環境作りを全学年で確認する。

○朝学習の工夫

・学級での学級担任・学習支援・特別支援学級担任が学習の見取りの時間を確保できるようにする。

(国語・算数・読書タイム・英語)

○学習のやくそく

7つのやくそく

- ① 休み時間につぎの学習の準備をする
- ② よい姿勢で学習の始めと終わりは、あいさつをする
- ③ ともだちや先生の話をしっかり聞く
- ④ しっかりと考える (1, 2, 3年)
自分の考えをもつ (4, 5, 6年)
- ⑤ 「声のものさし」を考えて発表する
- ⑥ 正しい姿勢で学習する。
- ⑦ 使った学習道具は、もとの場所にもどす。

○教室掲示

・授業で学んだ「用語」「まとめ」等を教室に掲示し、授業に活かす。

○学年のテスト・練習プリント

- ・実態把握のためのプレテストの実施。
- ・基礎的な内容だけでなく、思考力・判断力・表現力などを育てる問題に取り組む。
- ・1, 2年は「学力調査」に取り組み、全学年の実態を把握する。

・練習プリント, 定着確認プリントや習熟度に合わせたプリントの作成

➡ 前学年の振り返りプリントやつまずきを把握し、問題数を減らし
学習の支援が必要な児童に達成感や意欲をもたせやすいような工夫を行う。

○宿題や家庭学習

・自分の力で宿題ができるように、放課後等を利用した個別指導

・わからないこと間違ったことをそのままにしないことを目標にる。

・習慣化できたら、宿題以外の学習にも取り組めるようにする。

○学習計画の工夫

・経年調査テスト等の練習時間確保

→過去問題の活用, つまずきやすい問題の確認, 弱点の補充

・習得と活用のつながりを考えた学習計画

○発表の仕方

➡ 話し合いを通して, 学習を広げる・深める。

・ハンドサインの活用



同じ



つけたし



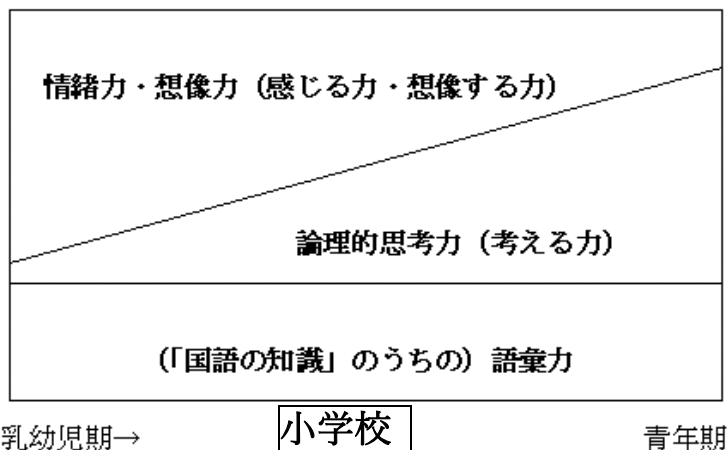
質問



意見

(2) 国語科の学習活動

① 発達段階に応じた重点の置き方



表現力はすべてに関連する

「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」「国語の知識」「教養・価値観・感性等」で構成される, 日本語を運用する総合的な力

漢字や慣用句の知識, さまざまな情緒に関する表現を理解したり使ったりする力, 論理的思考力, 読解力, 設問に適切に答える解答力など

② 授業作りの基礎

○ 言葉に着目して「読む」

(例) 「見る」

「にらみつけました」 大造じいさんとガン

「目につきました」 ごんぎつね

「目を落としました」 ごんぎつね

「見る」との違いから心情を読み取る。

○ 音読・視写の繰り返し学習 (1分音読, 1分視写などの仕方の工夫)

【漢字の読みを覚えたり, 文章の内容を理解したりする。】

○ 漢字の指導 ○ 辞書引き, 仕方の工夫

○ 「話す」「聞く」スキルの指導

低学年	中学年	高学年
・ はい。...です。 ・ わたしは...と思います。 ・ ○○さんと同じで（違って）...です。 ・ ○○さんに質問します。 ・ ...です。そのわけは...。 ・ はじめに...。次に...。 ・ ...です。どうですか。	・ わたしは...と思います。わけは...。 ・ ○○さんに賛成で（反対で）...です。 ・ ○○さんに付け加えて...です。わけは...。 ・ ○○さんの意見から...と思います。 ・ 結論から言うと...。 ・ ○○さん,どうですか。	・ ...とありますね。（根拠） ・ それで...と分かるので（理由）...と思います。 ・ 私の考えは...です。わけは3つあります。1つめは...。 ・ たとえば...ですね。 ・ つまり...ということですね（要約）。 ・ ここまで,いいですか。 ・ ○○さん,どう思いますか。

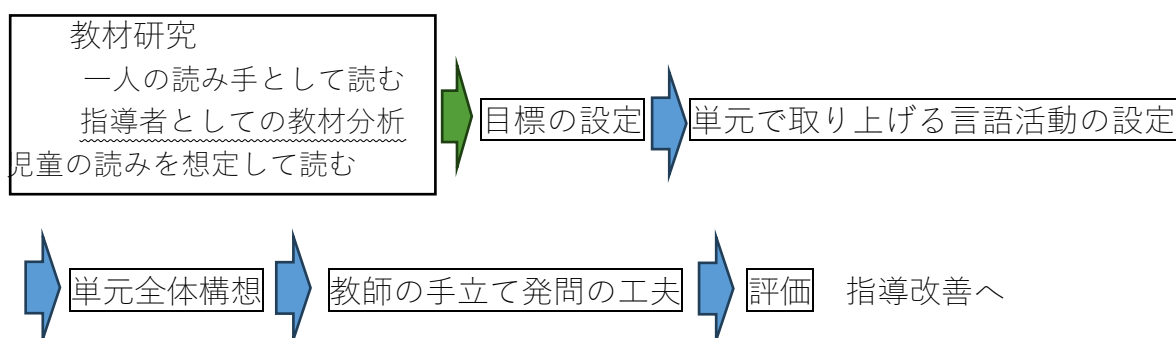
○「書く」スキル

思ったことや 考えたことを書く	考えをわかりやすく書く	構成やレイアウトを考え、 他の考えと比較して書く
--------------------	-------------	-----------------------------

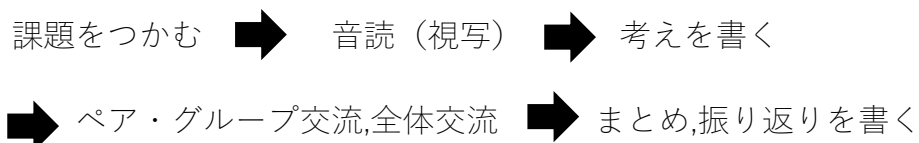
○振り返り

- ・ わかったこと・できたこと・○○さんの～がよかった
- ・ はじめは,～と思っていたけれど・・・にかわった
- ・ ○○さんの（ ）を聞いて,考えが変わった。わけは
- ・ （ ）がわからなかったなので,次の学習で考えたい。

③ 指導計画の流れ



④ 1時間の学習の流れ



Ⅱ 各学年の実践

第1学年国語科学習指導案

1. 日 時 令和6年12月3日(火) 第5時限 (13:50～14:35)

2. 学年・組 1年2組 (27名)

3. 単元名 こえに出してよもう
「おとうとねずみ チロ」(東京書籍1年)

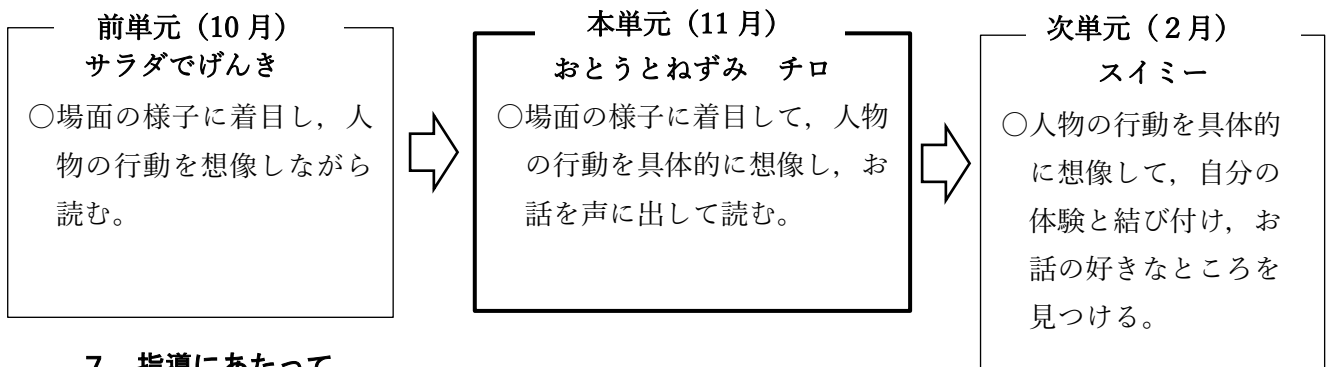
4. 目 標

人物の様子を思い浮かべながら、お話を声に出して読むことができる。

5. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。 (1)オ ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 (1)ク	・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 C(1)エ	・進んで人物の様子を思い浮かべながら、学習の見通しを持ってお話や感想を伝え合おうとしている。

6. 単元の関連と系統



7. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級の児童は、アンケートで92%の児童が「本を読むことが好きだ」と肯定する回答をし、休み時間に本を読んだり図書館開放に進んで行ったりしている。また、75%の児童が「本を声に出して読むことは好きだ」と回答をした。

児童はこれまでに、「とんこととん」や「かいがら」の学習において、場面の様子や登場人物の行動などの内容の大体を捉え、音読を楽しんだ。「おおきなかぶ」の学習では、登場人物

の行動や会話文を見て、「うんとこしょ、どっこいしょ」の他に何を言っていたのか想像し、登場人物に同化しながら演じてお話を楽しむ経験をしている。はっきりとした言葉で様子を思い浮かべながら音読ができる児童もいるが、大きな声を出すことを苦手とする児童もあり、朝の会で「一言スピーチ」を行うなどして、どの児童も自信を持って声を出せるようにしてきた。

「サラダでげんき」の学習では、場面ごとに出てきた動物と、動物が勧める材料やその理由を動物の会話や行動から捉えた。児童はどうして動物がその材料を勧めるのかということに気付き、自分なら何を勧めるのかということ、理由を交えて考えることができた。

11月に行った学習発表会では、気持ちを考えながら進んで登場人物になりきり、声に出していた。このことから、本單元においても動作化したり音読を工夫したりすることで、進んでチロの気持ちを考えようとするのではないかと考える。

以下が、事前調査をした結果である。

項目	平均正答率 (%)	誤答の傾向
①ひらがな 46文字	96	「む」「さ」の間違い
②既習漢字	92	「七」と「入」の誤答が多い。「七」と「ヒ」、 「人」と「入」で混ざっている児童がいる。
③新出漢字	82	「赤」「青」「字」の誤答が多い。「字」と 「学」で混ざっている児童がいる。
④カタカナ（チロ・チョッキ）	85	「チ」と「手」が混ざっている。 「ヨ」の一画目を逆に書いている。
⑤「くまのこは、だいすき なともだちには、どうする ことをきめたのですか。」 心情を読み取る文章問題	58	心情を表している箇所は理解できているが、叙 述を正確に写し切れていない。

ひらがな・カタカナは一文字では書くことができる児童は多いが、普段の学習においては、促音「っ（ッ）」や拗音「ゃ（ヤ）・ゅ（ユ）・ょ（ヨ）」で書くことや読むことにつまずいている児童がいる。また、文章を正しく書き写すことが苦手な児童が多い。

（２）教材観

本単元のねらいは、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、そのときの気持ちを読み取る力を身につけることをねらいとしている。本教材は、おばあちゃんからのチョッキを楽しみに待つ末っ子のねずみチロの行動や気持ちを中心に描かれている物語である。チロの行動や会話には気持ちの変化が素直に表されており、時や場所の変化による場面の展開も分かりやすい。さらに、チロの挿絵が表情豊かに描かれていて、人物の様子を具体的に想像しながら読むことができる。幼く素直なチロに自身を重ね合わせ、気持ちに共感しながら読み進めていくことができる教材である。

(3) 指導観

本単元では、登場人物の様子を表す叙述をもとに、中心となる人物の行動を具体的に想像して読み、自分の考えを他者に伝える力を身に付けさせたい。言語活動としては、物語の好きなところを選んで音読発表会で読む活動を設定した。

第Ⅰ次では、チロに愛着を持たせ、人物の気持ちを考えながら読むことへの関心を高めさせたい。まず、扉絵（手紙の住所・消印・宛名）と題名をもとに物語の内容を想像させる。指導者の範読を聞く際は、本単元のことばの力である「人ぶつのようなすをおもいうかべる」ということを押さえ、登場人物の様子を意識させる。また、本文の挿絵を用いて、物語の登場人物と出来事を確かめ、物語の大体をつかめるようにする。そして、お話の自分の好きなところを見つけるというめあてをもって音読発表会を行うという、単元の学習の見通しを持たせる。

第Ⅱ次では、場面ごとにチロの行動や会話に着目し、チロの気持ちを読み取らせたい。まず、物語の中で起こった出来事を整理するために、誰がどのようなことをしたのか確かめ、大体の内容を捉える。また、チロになったつもりで会話文を読んだり動作化したりして、登場人物に同化することでチロの気持ちをより深く考えることができるようにする。チロになりきって気持ちを考えたり演じたりできるようにチロが描かれたメダルを首にかけ、チロになりきる意欲付けにする。

本時では、おばあちゃんに呼びかけ、チョッキを作ってもらうようお願いをするチロの様子や気持ちを考える。チロの気持ちの変容が分かりやすく書かれている、「うれしがってとびはねる」や「口を大きくあけ」「じっと耳をすます」といったチロの行動を確認し、会話文と交えて心情を考えるようにする。「おばあちゃん……。」や「ぼくのこえがとんでった。おばあちゃんちへとんでった。」「ぼくはチロだよ。」「ぼくにもチョッキあんでね。」をどんな様子で言っていたのか考える。そして、チロは耳をすましているときに何を思っていたのかワークシートに書くようにする。このとき、メダルを使ってチロになりきるだけでなく、気持ちマークを利用して気持ちの変容も考えさせ音読に生かしたい。そして、掲示している小山に向かって「ぼくにもチョッキあんでね。」と様子を思い浮かべながら全体で音読を行う。最後にはチロのメダルを外し、自分自身の視点から感想を書くという時間を設けたい。

第Ⅲ次では、チロの物語の中から好きなところを選んでグループを作り、音読発表会を行う。そして、児童が選んだ場面の登場人物の様子を思い浮かべ、お気に入りの理由も発表し、読むように促す。友達の音読を聞くことで、物語を読みたいという意欲を高めたい。

さらに、気持ちを読み取ったことを豊かに表現したり、児童の語彙の量を増やしたりするために、気持ちや様子を表す言葉や音読の工夫の仕方を教室に掲示したり、ワークシートに示したりしておく。そして、文章を読むことが苦手な児童には、教科書の挿絵から気持ちが想像できるところに丸をつけさせたり、気持ちマークを活用したりして、物語を読む手がかりにさせ、言葉につなげたい。

8. 指導計画（全9時間）

次	時	主な学習活動	主な評価規準
I	1	○音読発表会を行うという，単元の学習の見通しを持つ。 ○題名や扉絵，挿絵から物語の内容の想像を膨らませる。 ○様子を思い浮かべながら，教師の範読を聞く。	・登場人物の様子を思い浮かべながら範読を聞くことができる。 【思・判・表】
	2	○本文を読み，誰がどのようなことをしたのかを確かめ，物語の内容の大体を捉えて初発の感想を交流する。	
II	3	○手紙が届いたときのチロの様子や気持ちを想像しながら読む。	・場面の様子に着目し，登場人物の行動を具体的に想像することができる。 【思・判・表】
	4	○丘のてっぺんの木に立ったときのチロの様子や気持ちを想像しながら読む。	
	5 (本時)	○おばあちゃんに呼びかけ，お願いをしたときのチロの様子や気持ちを想像しながら読む。	・身近なことを表す語句を理解し，音読することを通して話や文章の中で使うことができる。 【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 【知・技】
	6	○おばあちゃんからチョッキが届いたときのチロの様子や気持ちを想像しながら読む。	
	7	○おばあちゃんにお礼を伝えるときのチロの様子や気持ちを想像しながら読む。	
III	8	○物語の好きなところを選び，グループで音読発表会の練習を行う。	・進んで人物の様子を思い浮かべながら，学習の見通しを持ってお話や感想を伝え合おうとしている。 【態度】
	9	○音読発表会を開き，学習の振り返りをする。	

9. 本時の学習（本時5／9）

（１）目標 おばあちゃんに呼びかけ、お願いをできた時のチロの様子や気持ちを想像しながら読む。

（２）展開

学習活動	指導上の留意点（○指導者の指導・支援）	評価規準方法
1. 本時のめあてを確かめる。	○これまでの学習を振り返り、本時のめあてにつなげる。	
㊟おばあちゃんにおねがいをするチロになりきろう。		
2. 第二場面を音読する。 （P.75L1～P.77L2）	○チロがおばあちゃんに呼びかけ、お願いをしているチロの様子を想像しながら読むようにする。	○場面の様子に着目して、チロの様子を具体的に想像している。 【思・判・表】
3. おばあちゃんにお願いをしているときのチロの気持ちを考える。 ・チロの言ったこと、したこと、様子を考える。	○チロのしたことや挿絵から、チロの気持ちを想像し、「おばあちゃん……。」を音読する。 ○挿絵に注目させ、「うれしがってとびはねる」様子を、具体的に想像できるようにする。 ○「まえよりもこえをはり上げて」に注目させ、P.73L1「おばあちゃん……。」と呼びかけたときよりも声を大きくすることに気づくようにする。 ○気持ちマークを利用し、チロの気持ちの変容を視覚化できるようにし、一番伝えたかったことを確認するようにする。	
4. 「ぼくにもチョッキあんでね。」とお願いをしたときのチロの気持ちを考える。 ・ワークシートに書く。 ・ペアで交流する。	○おばあちゃんにお願いが届いたか確かめようとしているチロの気持ちを想像しやすくするために、耳をすましている様子を動作化するようにする。	
5. 「ぼくにもチョッキあんでね。」と言ったチロの様子を思い浮かべ、チロになりきって音読する。	○じっと耳をすましているときの気持ちも合わせて音読するようにする。	
		○チロになりきって気持ちを想像している。 （ワークシート） 【思・判・表】
		○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 【知・技】

6. 本時の学習を振り返る。	○今日のチロに対して思ったことを書く。 ○自分の学び方についての振り返りをする。	
----------------	---	--

(3) 板書計画

おとうとねずみチロ
もりやま みやこ

④ おばあちゃんにおねがいをするチロになりきろう。

「おばあちゃん…。」

ひとこえよびました。

・きこえているかな。・おばあちゃんはいえままでとどくかな
・どきどき ・おばあちゃんにぼくのこえとどいてほしい。

「ぼくのこえがとんでった。
おばあちゃんちへとんでった。」

うれしがつてとびはねる

・これでおばあちゃんにとどいたよね。
・おばあちゃんにこえがとどいてうれしい。
まえよりもこえをはり上げて

「ぼくは、チロだよ。」

大きく口をあけ、
いちばんだいじなことをいいました。

「ぼくにもチョコッキあんでね。」

だいじなことだからゆつくりいいたい。
大きくゆつくりいいたい。
耳をすます

・これでだいじようぶだ！・ぼくのチョコッキをあんでね。
・チョコッキたのしみだなあ。・おばあちゃんにおねがいとどいたかな。
・こんなに大きなこえをだしたからとどいてるよね。

○きようのかんそう

・チロのおねがいがおばあちゃんにとどいてよかった。
・こえがとどいたとおもっているチロがかわいい。

山びこ

はつきりと大きく

げんきよく

挿絵

挿絵

絵

10. 成果と今後の課題

①基礎的・基本的な知識・技能の定着及び活用

- 音読を意識づけできるように、「強く」「高く」「早く」「明るい気持ちなので、大きく元気に」などが分かるように「音読の工夫」を掲示した。チロのしたことや様子を表す叙述から、児童がチロの会話文をどんな話し方や声で読めばいいのか考えるための手がかりになった。
- 児童の語彙を増やすために、「わくわくする」「驚く」「寂しい」「心配」などの「気持ちを表す言葉」を掲示した。チロになりきって気持ちを考えたり、感想を書いたりするときにそれらの言葉を使い、より具体的に気持ちを表すことができた。

② 「わかる」「できる」「楽しい」を意識した学力向上に向けての取り組み

○単元のゴールを音読発表会にした。一番好きな場面を読むという学習のゴールがはっきりしていることで意欲が高まった。なぜ好きなのかを叙述に基づいて伝えることで、読み取ったことを音読で表現することができた。

○チロの気持ちや話し方を考える際には、一人一人がチロメダルをかけるようにした。チロになりきって言葉を言ったり、想像したり言ったりして楽しんで表現することができた。



○小山を掲示することで、第二場面の場所にいるような環境づくりを行った。遠くにいるおばあちゃんのことを想像しながら、動作化を交えて読むことができた。

●挙手をする児童が同じで、一部の児童が発言していた。挙手をしていない児童に対しても指名をする必要があった。

●気持ちマークを使って一番チロが伝えたかったところや、チロの気持ちが高揚しているところをしっかりと確認したかったが、時間が足りず、押さえが弱くなってしまった。

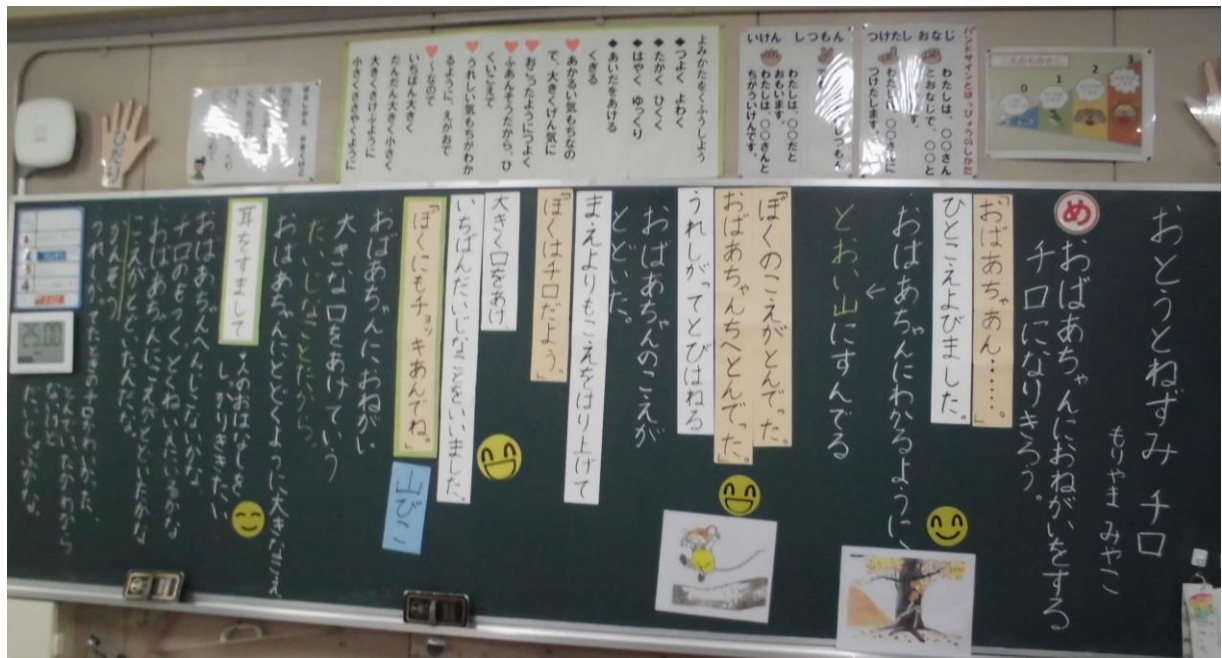


③その他

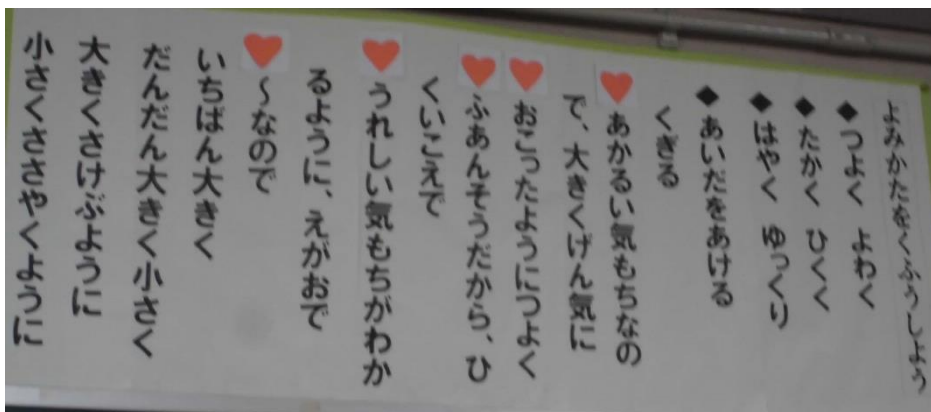
○テレビに教科書の本文を映す際に、パワーポイントを使うことで本文が拡大されて見やすくなった。

●チロの気持ちの変化を考える時間があまり持てなかった。授業者の発問を精選し、その発問に対して児童が自分の考えを整理し、ペアで交流して考えを深められるようにすべきだった。

〈板書〉



〈読み方の工夫〉



第2学年国語科学習指導案

1. 日 時 令和7年2月14日（金） 第5時限 （13：50～14：35）

2. 学年・組 2年1組 （34名）

3. 単元名 読んだかんそうをつたえ合おう
（「お手紙」アーノルド・ローベル 東京書籍2年下）

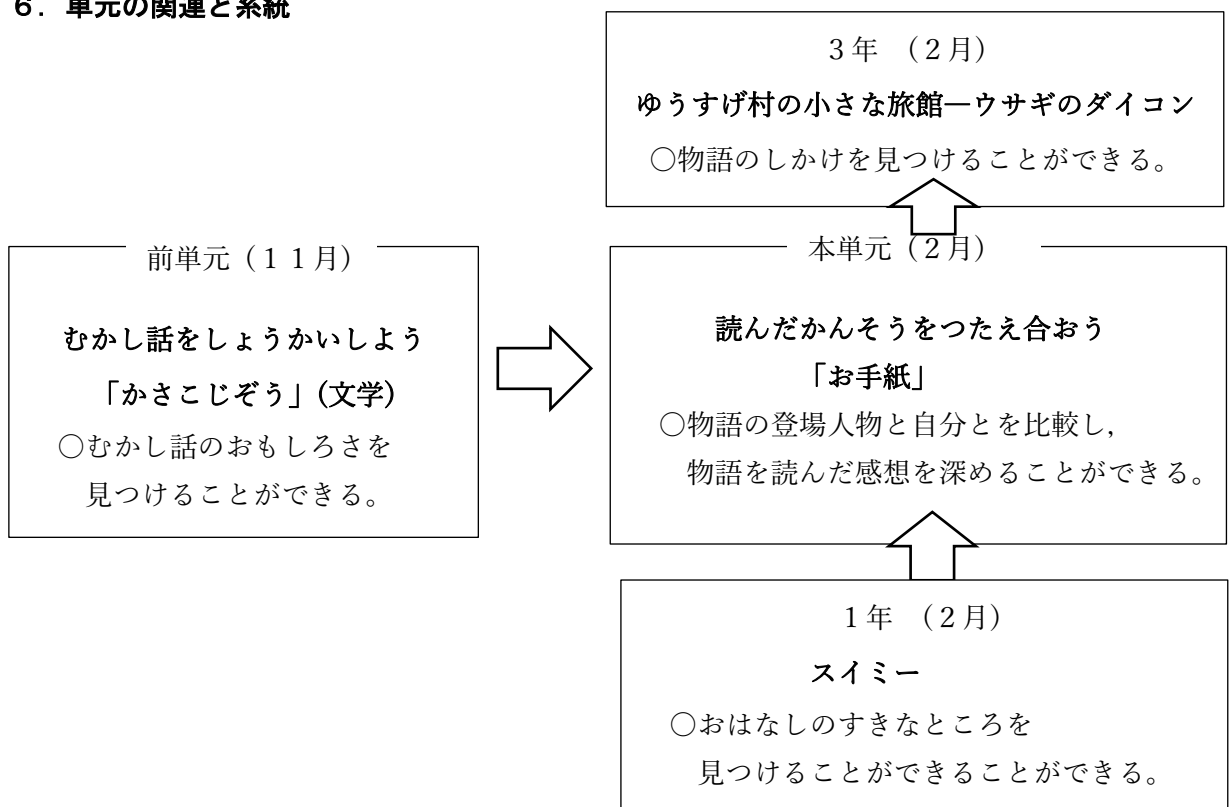
4. 目 標

○自分の感想と結びつけながら、物語の内容を深めることができる。

5. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文の中における主語と述語との関係に気づいている。 （1）カ	・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持っている。 C（1）オ ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 C（1）カ	・進んで自分と比べて読み、学習の見通しを持って感想を伝え合おうとしている。

6. 単元の関連と系統



7. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級の児童は、お話を聞いたり本を読んだりすることが好きな児童が多い。図書の時間や朝の読書タイムでも集中して読書に取り組んでいる。

4月に学習した「風のゆうびん屋さん」では、内容の全体をとらえ、読み取った人物の心情から人物の声を具体的に想像し、音読で表現することを学習した。最後はそれぞれ役割を決め、物語の音読発表会を行った。5月に学習した「名前を見てちょうだい」では、人物の行動を動作化することで心情を読み取り、どのように音読すれば気持ちが伝わるのかを考えて表現する学習をした。9月に学習した「ニャーゴ」では、出来事の順に場面を分け、人物がしたことや言ったことから心情の変化と捉え、音読で表現する学習を行った。主述関係を確認めながら、「なぜこのような行動をとったのか」と理由を考える中で、「もし自分だったらどうするか」を考えたり、挿絵や文から動作化をして心情を理解したりすることができた。思考・判断・表現を問うテストでは、82%の児童が全て正答し、平均点は94点だった。誤回答の中には、『子ねずみたちは、はじめてねこと会ったときの「ニャーゴ」をどんな意味のあいさつだと思いましたか。』の回答に「食ってやる」(正答は「あいさつ」)と回答した児童がいて、登場人物の行動や様子を読み取れていないことが分かる。11月に行った学習発表会では、「かさこじぞう」の劇に取り組んだ。クラス全員が大きな声で発表することができ、子どもたちの音読に対する意欲が高まった。

初発の感想を書いたり、学習の振り返りを文章に表したりするときに、自分の思ったことや感じたことを積極的に文章にすることができる児童は増えてきた。一方で、鉛筆を持ったまま何を書けばよいのか戸惑いを見せる児童も4～5人いる。また、登場人物の気持ちを想像したり感想を書いたりすることが難しい児童もいる。

(2) 教材観

本教材「お手紙」は、かえるくんとがまくんの二人の登場人物を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきり描かれた作品である。手紙を一度ももらったことがないと言って悲しい気持ちになっているがまくんを心配したかえるくんが、がまくんに内緒で手紙を出し、一緒に待つ話である。手紙を待ち続け、寂しさに心がいじけてしまうちょっぴりわがままで自分勝手ながまくんと、一生懸命相手に優しい言葉をかけるかえるくんの会話を中心に展開し、作者の手による表情豊かな挿絵が添えられた作品であるため、子どもたちには親しみやすい。こうした会話と挿絵を効果的に活用することで、登場人物に共感し、想像を広げながら読み進めていくことができる考える。そこで、本教材の学習では、豊かな想像を広げて物語を読み進めるために、挿絵を活用したり、動作化をしたりする。本教材は、五つの場面で構成されている。登場人物が少なく、会話を中心に物語が展開されているため、登場人物の行動や気持ちの変化をと

らえやすいと思われる。

「お手紙」は、アーノルド・ローベルの作品の「ふたりはともだち」に収録されている。この他に「ふたりはいっしょ」「ふたりはいつも」「ふたりはきょうも」があり、いずれもがまくんとかえるくんの日常がユーモラスに描かれている。本教材の面白さを味わうことを通して、他の作品への読書の意欲につなげることができる。

（３）指導観

本単元の指導にあたっては、文の挿絵をつないで、がまくんとかえるくんの気持ちや温かい心のふれ合いを、想像を広げて読ませたい。読み進めていく中で、子ども達を感じた疑問をクラス全体で交流し、その読みを深めさせていきたい。

第一次では、まず題名や扉絵から話を想像することで、興味関心を高めたい。「読み聞かせ」を行った後、「これはなぜだろう？」「なんでこのとき〇〇したんだろう」と子ども達を感じた疑問を書くことで、自らの問いを持たせるようにしたい。次に、物語の設定を確かめながら、場面分けをする。場面ごとの読み取りでは、かえるくんの気持ちに焦点を当てて、場面と場面を比べたり、文章と挿絵を関連させて読んだりすることで、がまくんの気持ちに共感したり、励ましたりする心情の変化に気付かせたい。

本教材は会話文を中心に展開されているため、第二次では、誰が話をしているのか『がまくん・かえるくんシール』を貼って、視覚的に分かるようにしたい。児童が疑問に思った内容を取り入れつつ、「かえるくんは手紙を出したことを言ってしまうてよかったのか」「お手紙をわたすのはかたつむりくんてよかったのか」を話し合えるようにしたい。

感想を伝え合う際には、友達との共通点や相違点に目を向けさせ、どうしてそう感じたのかを質問し合うようにさせる。そうすることで、どの言葉からそう感じたのか、理由や根拠となる叙述を考えることができる。根拠なく想像するのではなく、どこからそう感じたのかを話すことで、教材文を読み深めさせたい。

本時の「手紙を出したことを言ってしまうてよかったのか」では、まず自分の意見をもつようにする。「言ってしまったら楽しみがなくなるから言わない方がよかった」と考えた児童の意見も大切にしながら、「言ってしまったからこそ幸せな気持ちで待てた」「手紙の内容も聞いてとてもうれしくなったからよかった」という考えを広げ、深めていくことができるようにしたい。

第三次では、並行読書してきたお話の中から一話選んで『ふたりは〇〇しょうかいカード』を書く。カードには、面白いところや自分のお気に入りのところを選び、友達と交流する。お互いの発表を聞き合うことで、新たに面白い部分に気づき、感想を深めることができるようにしたい。

8. 学習指導計画（全10時間）

次	時	主な学習活動	主な評価規準
I	1	○題名・扉絵から物語の内容を想像する。 ・扉のよびかけの言葉や挿絵を参考に、想像を膨らませるようにする。 ○範読を聞き、初発の感想を書く。 ・最後に『ふたりは○○しょうかいカード』を書くことを知らせ、並行読書をする本を紹介し、読書意欲につなげる。	・本文の内容に即した初発の感想を自分の言葉で書くことができる。 (思・判・表)
	2	○出来事の順序を確かめながら場面分けをし、気になったことや不思議に思ったことなどから、学習課題を見つける。	・出来事の順序を確かめながら、場面分けをすることができる。(知・技)
	3	○前時で考えた学習課題をグループで話し合い、全体で共有する。	・友達の考えを聞いて、自分の考えと似ているところや気になったところを見つけることができる。 (態度)
II	4	○会話文に注目しながら、音読練習をする。 ・登場人物の会話文にシールを貼る。	・がまくんとかえるくんの行動や様子がわかる言葉を見つけることができる。(思・判・表)
	5	○第一場面を音読し、『どうして二人ともかなしい気分なのか』を考える。	・お手紙を待つ二人の様子から気持ちを読み取ることができる。(思・判・表)
	6	○第二・三場面を音読し、『大いそぎで家に帰ったかえるくんの気持ち』を考える。	・がまくんへお手紙を出したかえるくんが、かたつむりくんの到着を待つ気持ちを読み取ることができる。(思・判・表)
	7 本 時	○第四場面を音読し、『かえるくんは手紙を出したことを言ってしまうてよかったのか』を考える。 ・物語の初めの場面と終わりの場面の「お手紙を待つ二人」の心情を考える。	・かえるくんが、手紙を出したことだけでなく内容まで伝えたからこそ、がまくんは幸せな気持ちになれたことに気づくことができる。(思・判・表)
	8	○第五場面を音読し、『お手紙を渡すのはかたつむりくんによかったのか』を考える。 ・ふたりはどんな四日間を過ごしていたのか想像する。	・かえるくんが自分で届けていたらどうだったのかを考え、かたつむりくんに渡したからこそ四日間幸せな気持ちで待てたことに気づくことができる。 (思・判・表)
III	9	○並行読書してきたお話の中から一話選んで『ふたりは○○しょうかいカード』を書く。	・物語全体を通して、並行読書をしてきた物語の好きなところを見つけることができる。 (思・判・表)
	10	○『ふたりは○○しょうかいカード』を学級で交流する。	・自分の書いたカードと友達の書いたカードを読んで、交流することができる。(態度)

並
行
読
書

9. 本時の学習（本時7／10）

（1）目標

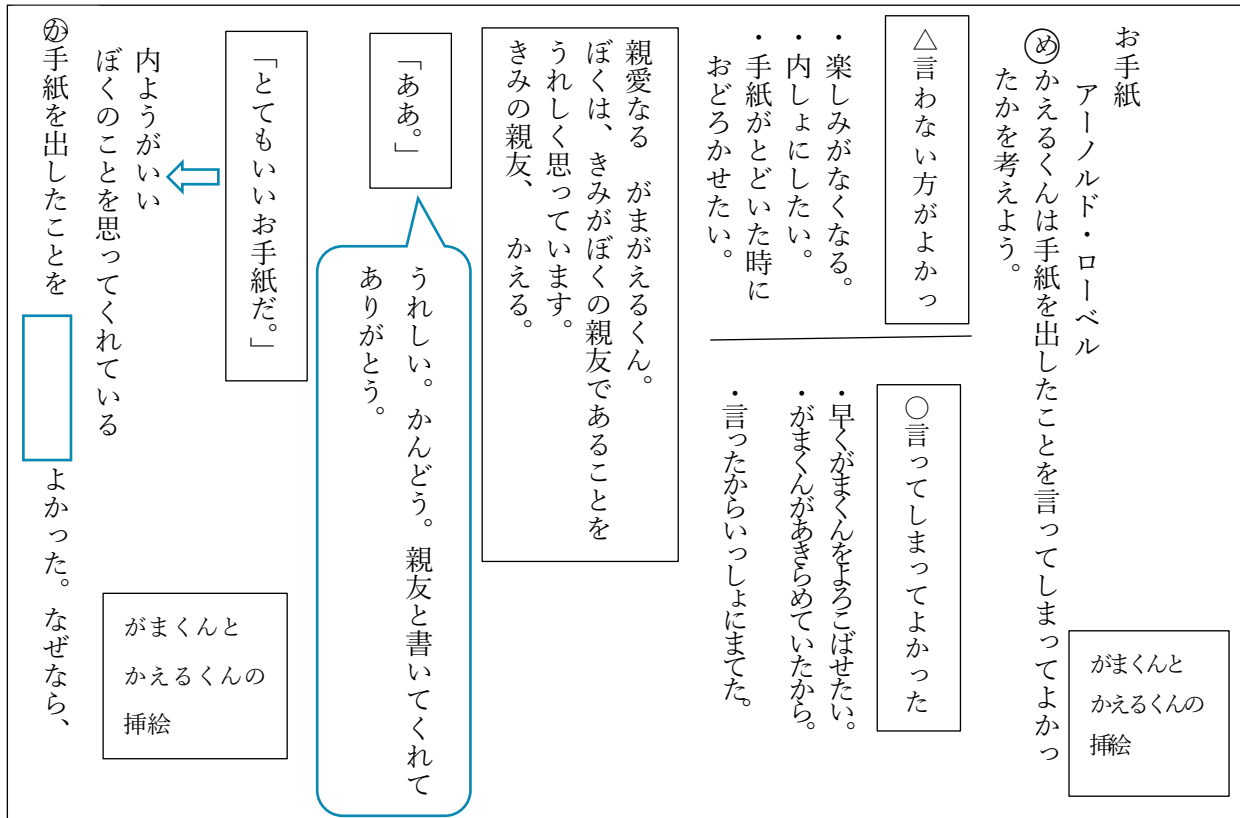
- ・場面の様子に着目して、自分の考えを伝え合うことができる。

（2）展開

学習活動	指導上の留意点（指導者の指導・支援）	評価規準方法
1. 本時のめあてを確かめる。	・これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。	
㊦ かえるくんは手紙を出したことを 言ってしまうてよかったのかを考えよう。		
2. 第四場面を音読する。 (P.123L9～P125L10)	・お話の全体を確認しながら読むようにする。	・気持ちや様子を想像しながら、音読ができている。【知・技】
3. 自分の考えを書く	・言ってしまうと思う人は○、よくなかったと思う人は△を書き、その理由を書く。	
4. 交流する。 ・4人組→全体	・友達の考えと似ているところや違うところを見つけながら聞く。 ・この物語としてはどうだったのか問い返し、叙述を根拠に話し合う。	・友達の考えを聞き、自分の考えと似ているところや違うところに気づくことができる。 【態度】（発表）
5. 手紙の内容を確認する。	・「親愛なる」「親友」の意味を考え、自分の言葉で言い換える活動を通して、大切な友達と思っていることに気づくことができるようにする。	・かえるくんが、手紙を出したことだけでなく内容まで伝えたからこそ、がまくんは幸せな気持ちになれたことに気づくことができる。 【思・判・表】
6. 「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」と言ったがまくんの気持ちを考える。	・「ああ。」と挿絵をつないで、がまくんの様子を想像させる。 ・かえるくんが親友と思ってくれていることを知った喜びの気持ちを読み取らせる。	

7.学習した上で、もう一度自分の考えを書き、本時の感想を書く。	・最初と考えが変わった場合は、その理由を書く。考えが変わらなかった場合は、最初の考えに本時で学んだ考えを付け足して書く。	・授業を終えて、もう一度自分の考えをまとめることができる。 【態度】(発表)
---------------------------------	--	---

(3) 板書計画



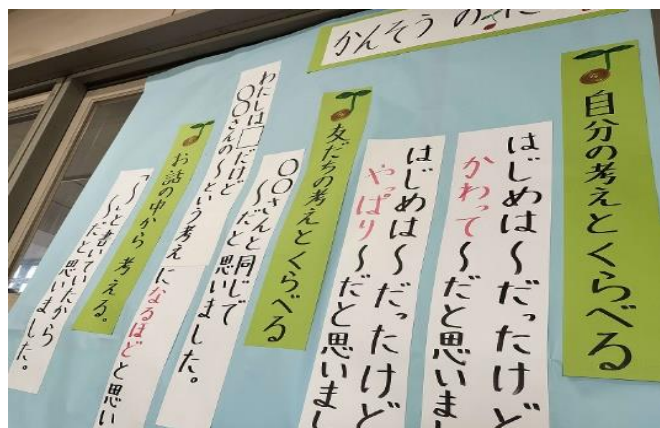
10. 成果と今後の課題

①基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための授業方法の工夫

○「かんそうのたね」の掲示をすることにより、話し合い活動やノートに感想を書く上での手立てとなった。

○1グループを4人以下とし、司会者をたてることで話し合い活動が円滑になり、自分の考えをしっかりと伝えることができた。

○自分の感想を伝えた後、相手の意見を聞き、最後にもう一度自分に返って考えをまとめたことで、伝え合う活動がより深まった。



た。

○グループで交流した後、『質問タイム』や『なるほどタイム』を設けることにより、グループの意見を全体で交流することができた。

●話し合い活動は活発に行われたが、子どもたちの意見交流から出た発言に対して、指導者の重ねる発問や助言が足りなかった。

②「わかる」「できる」「楽しい」を意識した学力向上に向けての取り組み

○図書の学習でアーノルド・ローベルの作品のお試し読みを行い、作品に興味を持ったことで、並行読書へ移行しやすかった。

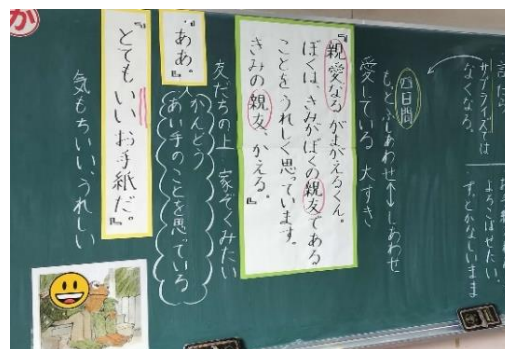
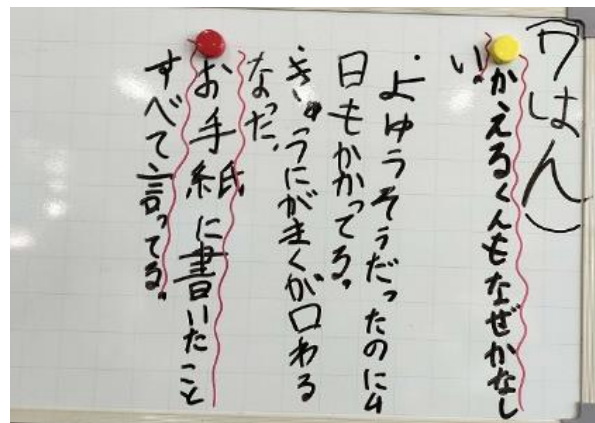
○初発の感想から学習課題を見つけ、全体で共有する時間を設けた。

その中で、みんなで話し合うべき学習課題とはどんな内容なのかを全体で確認することで、その後の話し合い活動が活発になった。

○挿絵を活用することにより、登場人物の心情に迫ったり、自分の考えを持ちやすくする手立てとなった。

●指導者の授業の進め方が早かったため、自分の考えを交流する時間や最後の感想をまとめる時間が少なかった。

●児童の意見に対して「なぜそう思ったのか?」「どの文からそう分かったの?」と尋ね返すことで、より本時のめあてに近づく、児童の考えを引き出した。



第3学年国語科学習指導案

1. 日 時 令和6年10月11日(金) 第5時限 (13:50~14:35)

2. 学年・組 3年2組 (25名)

3. 単元名 中心人物について考えたことをまとめよう
「サーカスのライオン」

4. 目 標

・中心人物の行動や気持ちを捉え、人物について考えたことを伝え合うことができる。

5. 評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現
・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 (1) オ	・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉えている。 C(1) イ ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像している。 C(1) エ ・「書くこと」において、相手を意識して、想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。 (1) ア	・進んで中心人物の行動や気持ちを捉え、学習の見通しをもって、考えたことを文章にまとめて伝え合おうとしている。

6. 単元の関連と系統

前単元	本単元	次単元
「ワニのおじいさんのたから物」 ○登場人物や、起こった出来事など物語の内容を短くまとめる。	「サーカスのライオン」 ○中心人物の行動や気持ちを捉え、人物について考えたことを伝え合う。	「モチモチの木」 ○人物の性格について想像したことを伝え合う。

7. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級の児童は、読書タイムや図書の時間などに積極的に本に親しんでいる。アンケートでは、読書は好きと答える児童は、25人中24人であり、読書好きの児童が多い学級であると考えられる。しかし、普段よく読むジャンルはクイズや絵本など偏りが多く、様々なジャンルの本を読んでいるとは言えない。並行読書として、普段あまり読まない物語の含まれている本を図書館から取り寄せ学級に置くと、興味を持って読んでいた。

第2学年で学習した「ニャーゴ」では、たまおじさんの気持ちを子ねずみたちとの会話や様子から読み取ったり、想像したりした。場面ごとに「食べる-食べない」の心情曲線に触れ、ねことねずみの関係性について考えた。たまおじさんの気持ちを想像することで、学習計画の終わりに設定した1年生への音読発表会では、登場人物の様子をどのような声の大きさや早さで表したらよいか考え、意欲的に取り組むことができた。第3学年で学習した「ワニのおじいさんのたから物」では、登場人物の行動を想像することに加え、中心人物の性格を考える学習を行ったが、どのように書いたらよいか迷う児童が多くいた。そのため、場面ごとに起きた大きな出来事では、挿絵を用いたり、主語や述語に線を引いたりして欠かせない言葉を確認した。また、ペアやグループ交流で理由をつけて話し合う活動を行ったことで想像力を膨らませることができた。

(2) 教材観

本教材は、年老いてやる気を失い、寝てばかりいたライオンのじんざが、ある男の子と出会ったことにより、やる気と生きる希望を取り戻していくことを描いた作品である。

この教材の特徴として、中心となる人物が明確であり、じんざの行動や男の子との会話を通して、じんざの気持ちやその変化が捉えやすい物語である。

男の子がじんざに出会う前、出会った後、男の子を助けようとするときなど、場面の移り変わりとともに中心人物のじんざの気持ちも大きく変化していく。また、場面の山場で火の中に飛び込むじんざの行動や物語の終わり方については、多様な感想が生まれると考えられる。中心人物に心を寄せながら読むのにふさわしい教材である。

(3) 指導観

本単元では、各場面での中心人物の気持ちとその変化を捉え、人物について考えたことをもとに交流する。言語活動として、中心人物にあてた手紙を書く学習を設定する。

第Ⅰ次では、物語を通読し、初発の感想を交流する。そして、中心人物を確認するとともに、印象的な場面や出来事に印をつけさせる。場面分けを行い、中心人物が物語の中で経験した出来事から、どのように気持ちが変化していったのか学習することを押さえ、じんざへの手紙を書くことを目標とする見通しをもたせる。

第Ⅱ次では、各場面での中心人物の「会話文」と「行動や様子」を確認し、それを基に中心人物の考えや気持ちを考えさせる。第一場面では、「年をとっていた」や「テントのかげのはこの中で、一日中ねむっていた」などから、中心人物の姿やサーカスに対する熱量などに触れ、気持ちを読み取らせる。第二、三場面では、男の子の出会いから中心人物がどのように影響を受け、気持ち

が変化していったのか読み取る。第四場面（本時）では、なぜ中心人物は男の子を助けたのかに焦点を当て、その理由をこれまでの学習で変化した気持ちやその思いが表現されている叙述から深く想像できるようにする。心情曲線を用いることで、中心人物の気持ちの変化を視覚的に理解できるようにする。

第Ⅲ次では、これまで学習した中心人物の人物像を理解した上で、金色のライオンとなり去っていったじんぎに宛てた手紙を書き、友達と交流する。発表の中で、他児童が中心人物のどの場面が印象的だと感じたか、自身の書いた手紙との違いを確認することで単元のまとめとする。

8. 指導計画（全9時間）

次	時	主な学習活動	主な評価規準
Ⅰ	1	○既習の物語教材で学習したことを振り返り、単元の学習の見通しをたてる。 ○全文を通読し、中心人物を確かめる。 ○物語の初発の感想を書き、交流する。	・学習内容をつかみ、物語への興味や学習意欲を持つことができる。【態度】
	2	○語句の意味を調べる。 ○場面分けをし、大まかな流れを捉える。	
Ⅱ	3	○第一場面より、じんぎがサーカスの中で過ごす様子や気持ちを叙述から読み取る。	・場面ごとの行動や様子から、じんぎの気持ちを想像しながら読んでいる。 【ノート・発言】 ・叙述をもとに、じんぎの気持ちや変化を捉えることができる。 【ノート・発言】
	4	○第二場面より、じんぎが男の子と出会ったことによる気持ちの変化を読み取る。	
	5	○第三場面より、じんぎが男の子と交流を深める様子から、じんぎにとって男の子がどのような存在になっているか考える。	
	6 (本時)	○第四場面より、金色に光るライオンとなったじんぎの気持ちを考える。	
	7	○第五場面より、サーカスが最後の日の人物の様子を読み取る。	
Ⅲ	8 9	○物語の感想として、じんぎへの手紙を書き、交流する。	・じんぎの気持ちを想像しながら、自分の思いを手紙に書いている。

9. 本時の学習（本6／9時間）

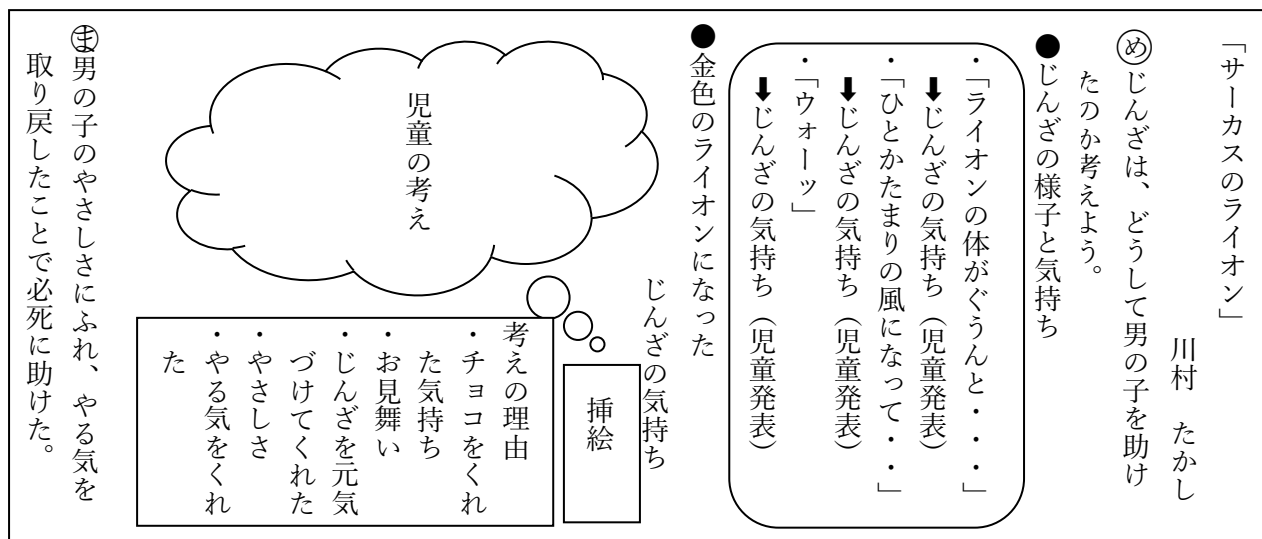
（1）目標

- ・ 中心人物の気持ちを読み取ることができる。

（2）展開

学習活動	指導上の留意点（指導者の指導・支援）	評価規準方法
1. 前時までの学習を想起する。	・ 掲示物を使用し、前時までの学習を振り返る。	
2. 本時のめあてを確認し、第四場面の音読を聞きながら、じんざが必死で助けようとする様子がわかる箇所に線を引く	めあて：じんざは、どうして男の子を助けたのか考えよう。 ・ じんざが男の子を助けている、助けた後の気持ちを想像しながら読むように促す。 ・ じんざの様子が変化していくことを、文中や挿絵から見つける。 「ライオンの体がぐうんと大きくなった。」 「ひとかたまりの風になって〜。」 「じんざは力のかぎりほえた『宇オーツ』」 「ひかひかにかがやくじんざだった」	
3. じんざの行動や気持ちの変化を考える。	・ じんざが男の子に向ける気持ちや様子の変化がわかる場面を、掲示物を用いて確認し、男の子を助けた理由について考える。 ・ 掲示物を使用し、これまでのじんざの気持ちの変化に触れ、男の子を助けた理由の手立てとする。	○ 叙述を基に登場人物の気持ちを考えることができる。 (ワークシート) 【思・判・表】
4. p 144 2 行目～p 144 5 行目を音読し、「金色に光るライオン」について考える。	・ これまでの男の子との関わりから、金色に光るライオンになったじんざの気持ちを想像して書くようにする。	○ 登場人物の気持ちの変化について具体的に想像できている。 (発表) 【思・判・表】
5. じんざの気持ちについての考えを話しあう。 ・ 3人グループ ・ 全体	・ 考えたことを発表する際には、なぜそう書いたのか理由と合わせて発表するように促す。 ・ 友だちの考えを参考にしながら、交流できるようにする。	
6. 本時の学習を振り返る。	・ 本時の学習をまとめ、ふりかえりシートに記入し、次時につなげる。	○ 気持ちを捉え、考えたことを伝え合おうとしている。 (発表) 【主】

(3) 板書計画



10. 成果と今後の課題

① 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための授業方法の工夫

- 場面ごとの登場人物の様子がわかる文（「じんざは、ぐぐっとむねのあたりがあつくなつた」、「じんざは力のかぎりほえた、ウォーッ」）を捉えさせ、その気持ちを考えさせた。理由付けとして、叙述から考えるように声掛けをすることで、本文に戻り考えることができた。
- 場面ごとの出来事と、それに伴う登場人物の気持ちの変化を心情曲線として掲示することで、子どもたちが振り返りに活用することができた。
- 学習規律がきちんとできていた。
- 場面ごとのつながりを意識させるような声かけが必要。

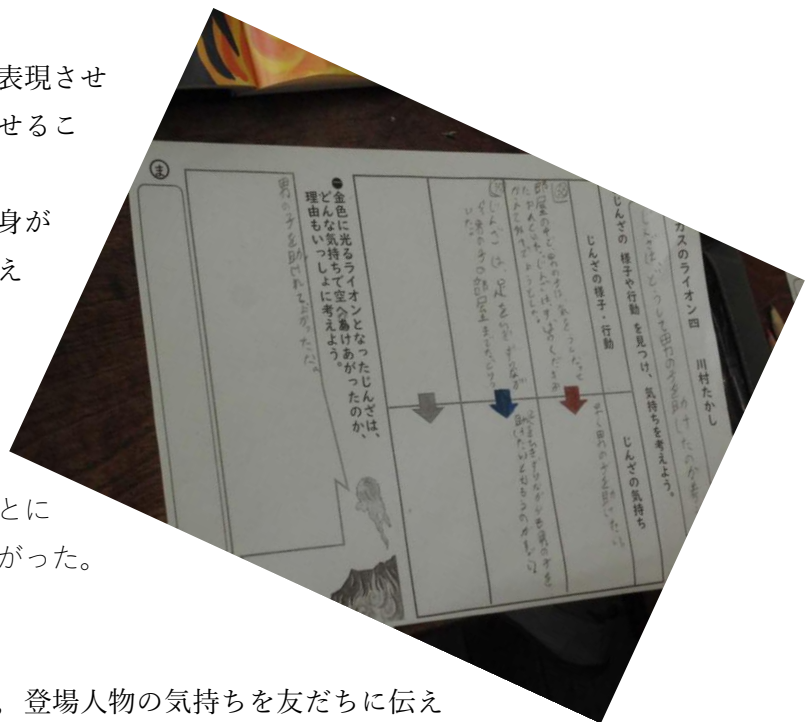


②授業改善の工夫

○「ウォーッ」と叫ぶ場面を児童に表現させることで、具体的に気持ちを捉えさせることができた。

●取り上げる叙述をしぼり、児童自身がなぜそのような行動を取ったかを考えると学習が深まった。

●「金色に光るライオンは、～～消えさった。」に対し、登場人物がどのような気持ちで去っていったのか、後悔していたかなどを叙述をもとに考えさせると児童の主体的学習に繋がった。



③その他

○サーカスの関連図書を教室に置き、登場人物の気持ちを友だちに伝えてみるように学級で促すことで、意欲的に課題に取り組む児童が多く見られた。



第4学年国語科学習指導案

1. 日 時 令和6年 11月5日(火) 第5時限 (13:50～14:35)

2. 学年・組 4年2組 (32名)

3. 単元名 和室と洋室のよさをしょうかいしよう
「くらしの中の和と洋」(東京書籍4年)

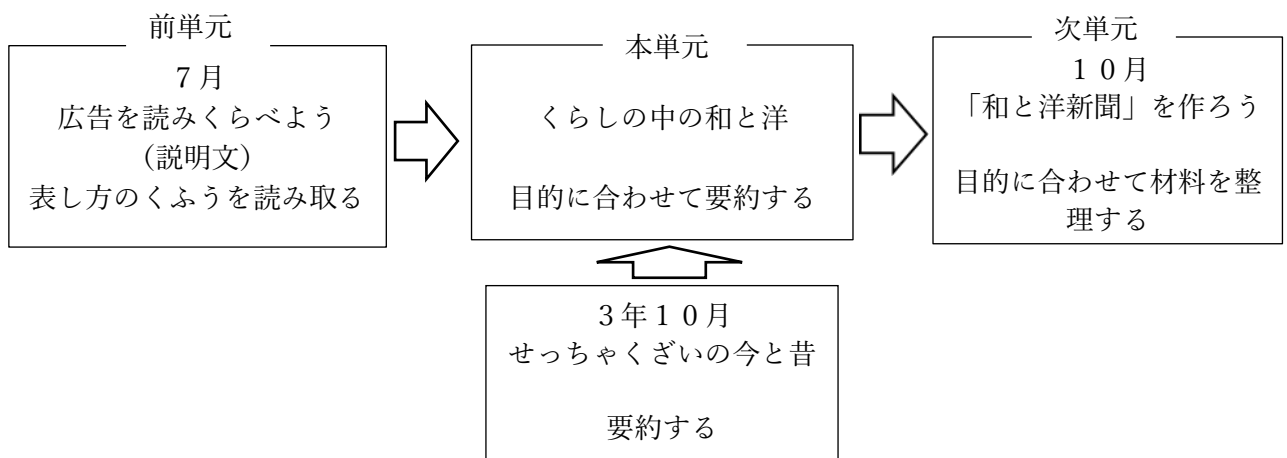
4. 目 標

○何をどのように比べているかを読み取り、比較の仕方を意識して、調べたことをまとめることができる。

5. 評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度	思考力・判断力・表現力
・比較や分類の仕方を理解して使っている。(2)イ	・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 C(1)ア ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。 C(1)ウ ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落の相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 B(1)イ	・これまで学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しを持って、粘り強く目的を意識して文章を要約し、紹介文を書こうとしている。

6. 単元の関連と系統



7. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級の児童は、学力の差が大きく、どの教科においても理解度に差がある。国語の学習に意欲的な児童は多いが、叙述をもとに物語の登場人物の気持ちを考えたり、筆者の伝えたいことを文章から探したりすることが苦手な児童もいる。また、書く活動になると、自分の考えを持っていても、それを文章にすることが苦手で、なかなか課題に取り組むことができない児童もいるため、学習支援が必要である。

昨年度の学力経年テストの結果では、国語の大阪市平均正答率が64.4%なのに対し、本学年の児童は56.4%と下回っている。領域別正答率を見ると、どの項目においても大阪市平均よりも下回っており、「読むこと」「書くこと」の基礎が定着していないことが分かる。

1学期の単元テストの結果は以下の通りである。

単元	問題	正答率と誤答の傾向
ヤドカリとイソギンチャク	筆者は、ヤドカリがイソギンチャクを貝がらに付けているのはなぜだと考えますか。(敵・しよく手・身を守る)という言葉を使ってまとめましょう。	無回答 25% 正答 26% 利益は書けたが、関係性は書けない 48% 問題文からはずれた回答 1%
広告を読みくらべよう	広告1・2で、表し方がちがうのはなぜですか。「相手」「くふう」という二つの言葉を使って書きましょう。	言葉は書けない、無回答 29% 正答 27% 言葉は書けたが、作りの目的は書けない 44%

4年1学期の「広告を読みくらべよう」の学習では、2つの広告から意図に合わせた書き手のくふうの違いを読み取る経験をしているが、作者の意図を考えて要約する力が不十分である。

条件を満たした解答ができていない、また無回答の児童が多いことから、問題文の意味を十分に理解できていないことがわかる。

(2) 教材観

本単元は、文章から何をどのように比べているのかを読み取り、その比較の仕方を、自分の調べたことと関連付けてまとめることをねらいとしている。また、学習指導要領における〔思

考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと」（１）ウ「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」が重点指導事項である。

本教材は、暮らしの中の「住」における「和」と「洋」の違いやそれぞれの良さを対比して、分かりやすく説明したものである。はじめ、中、終わりという文章構成であり、中では、「和」と「洋」の対比構造が明確に示されており、それぞれの違いや良さを読み取りやすくなっている。比較する観点に合わせ、対比の形で関連付けながら説明する効果や良さについて学習するのに適している教材である。

（３）指導観

第Ⅰ次では、たくさんの「和」と「洋」の写真に分けて掲示する。どのような基準で分けて掲示しているかを考えさせることで、児童に興味を持たせた上で教科書の文章を読んでいく。説明的な文章は物語に比べて親しみにくい傾向にあることから、身の回りの「和」と「洋」のものを出し合わせることで、自分たちの暮らしの中にはたくさんの「和」と「洋」のものがあることを実感させ、自分の経験と照らし合わせながら本文を読むことができるようにしたい。暮らしの中の「和」と「洋」についての紹介文を書くことを単元のゴールとし、学習の見通しを持てるようにする。

第Ⅱ次では、教科書の文章を読み、「はじめ」「中」「終わり」と段落ごとに分けていく。分ける際には本文の文末表現や接続詞、主語の変化からまとまりが変わることに気付かせたい。また、構成図を用いることで、話題の提示→本論→結論という本文全体の構成と「和」と「洋」の対比構造を捉えやすくする。

本時では、和室と洋室の使い方について良さをまとめる。和室と洋室について書かれているところにそれぞれの色で線を引き、本文に資料が無いことに気付かせる。本文に合う写真を「和室」「洋室」それぞれ選び理由をグループやクラス全体で交流する。グループでの話し合いの際には、司会をたてることで、発言をすることが苦手な児童も発言の機会を持てるようにしたい。さらに、理由を明らかにしながら自分の考えを交流することで、より良い要約の仕方に気付きながら、考えを深められるようにしたい。

第Ⅲ次では、児童が書いたくらしの中の「和」と「洋」についての紹介文を、衣食住のテーマごとにまとめ、友達と読み合う。感想を伝え合う活動では、調べた情報の整理の仕方や、引用のきまりが守れているか、違いが生み出す差や良さを見つける視点を意識させて伝え合うことができるようにしたい。

児童への手立てとして、教室に「比べる言葉」「つなぎ言葉」「要約のポイント」を掲示し、文章を書く際や話し合い活動の際に意識できるようにする。また、キーワードとなる言葉を教科書に印付けしたり、穴埋めができるプリントで要約文を書く練習をしたりすることで、読み取ることが苦手な児童も意欲的に活動できるようにしたい。

8. 指導計画（全14時間）

次	時	主な学習活動	主な評価規準
I	1	○これまでの学習経験を想起させ、学習の見通しを立てる。	・これまで学習したことや生活の中で実用的な文章を読んだ経験を振り返って学習課題を明確にしている。【態度】
II	2 3 4 5 (本時)	○段落分けをする。 ○段落ごとの内容を確認め、文章の構成を捉える。 ○「和室」と「洋室」の過ごし方の良さをどのような観点から比べているのか、また、その観点に沿って、どのような事例が挙げられているかを読み取る。 ○「和室」と「洋室」の使い方の良さを読み取り、本文に合う資料を考え要点のまとめを書く。	・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持っている。【読】 ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。【読】 ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。【読】
	6 7	○暮らしの中にどのような「和」と「洋」があるか考える。 ○自分の課題について調べ、紹介文を書く。	・比較や分類の仕方を理解して使っている。【知・技】 ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落の相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。【書】 ・目的を意識して文章を要約し、紹介文を書こうとしている。【態度】
III	8	○完成した紹介文を読み合い、感想を伝え合う。	・どのような観点で比べているのかに注目して、感想や考えを持っている。【読】【態度】

9. 本時の学習（本時5／8）

（1）目標

- ・写真を選ぶことで和室と洋室の使い方の良さについて書かれた文章の中心をつかみ、本文の要点をまとめることができる。

（2）展開

学習活動	指導上の留意点（指導者の指導・支援）	評価規準方法
1. 前時までの学習を想起する。	・前時は「和室」と「洋室」の過ごし方の違いを本文から探し、まとめたことを思い出させる。	

2. 本時のめあてを確認する。	・11～13 段落には資料がないことに気付かせる。 ・和室と洋室の写真を 6 枚用意し，黒板に提示する。	
めあて：和室と洋室の使い方のよさをまとめよう。		
3. 本文(11～13 段落)を音読する。	○和室と洋室について書かれている段落番号にそれぞれの色で印をつけ，確認させる。	○目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約している。(ワークシート) 【思・判・表】
4. 6 枚の写真の中から，本文に合う写真を 1 枚ずつ選び，理由を書く。	○文章から要点を見つけることが難しい児童に声をかけ，一緒に考えるようにする。	
5. 考えを発表する。 ・グループ ・クラス	○グループでの発表の際は司会を立て，全員が 1 度は発言できるよう促す。	○考えたことを一人一人の感じ方に違いがあることに気付いて書こうとしている。(ノート) 【態度】
6. 11～13 段落の要点をまとめる。	○ワークシートに和室，洋室の使い方の良さをまとめる。その際，写真を選んだ理由も活用するよう促す。	○書く内容の中心を明確にし，文章の構成を考えている。(ワークシート) 【思・判・表】
7. 本時のまとめをする。	○本文の「良さ」という言葉や具体例を手掛かりに和と洋の違いを見つけることができることに気付かせる。	
8. 学習の振り返りをする。	○ワークシートに振り返り方を示しておくことで，文章で振り返りが表しやすいようにする。	○本時の学習で分かったこと，感じたことを振り返っている。(ノート) 【態度】

(3) 板書計画

くらしの中の和と洋 ④和室と洋室の使い方方のよさをまとめよう。	写真①	写真②	写真③
	写真④	写真⑤	写真⑥

要点のまとめ
 和室の過ごし方の良さは、一つの部屋をいろいろな目的に使うことができること。
 洋室の過ごし方の良さは、その部屋で何をすることがはっきりしていて、そのために使いやすく作られていること。
 ⑤本文の言葉を手がかりに、それぞれの良さをを見つけることができる。

10. 成果と今後の課題

①基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための授業方法の工夫

○「国語の力」の掲示をすることにより、文章の構成から筆者の伝えたいことを確認し、読み取ることができた。

○司会をたてることで話し合い活動が円滑になり、1人1回は自分の考えを伝えることができた。

●学習支援を必要とする児童が、本文の要点を読み取ることができる工夫が更に必要。

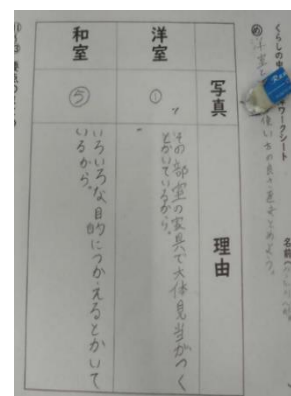
②「わかる」「できる」「楽しい」を意識した学力向上に向けての取り組み

○写真を選ぶという活動を取り入れたことで、児童が学習に興味を持って取り組むことができた。

○要点を探そうとすることで、何度も自分で本文を読み直すことができる活動だった。

○要点のまとめを書く時間をもっとあればよかった。

●指導者の音読が速く、聞き取りにくい児童もいた。



第5学年国語科学習指導案

1. 日 時 令和6年9月13日（金） 第5時限 （13：50～14：35）

2. 学年・組 5年2組 （27名）

3. 単元名 書き手の意図を考えよう
「新聞記事を読み比べよう」

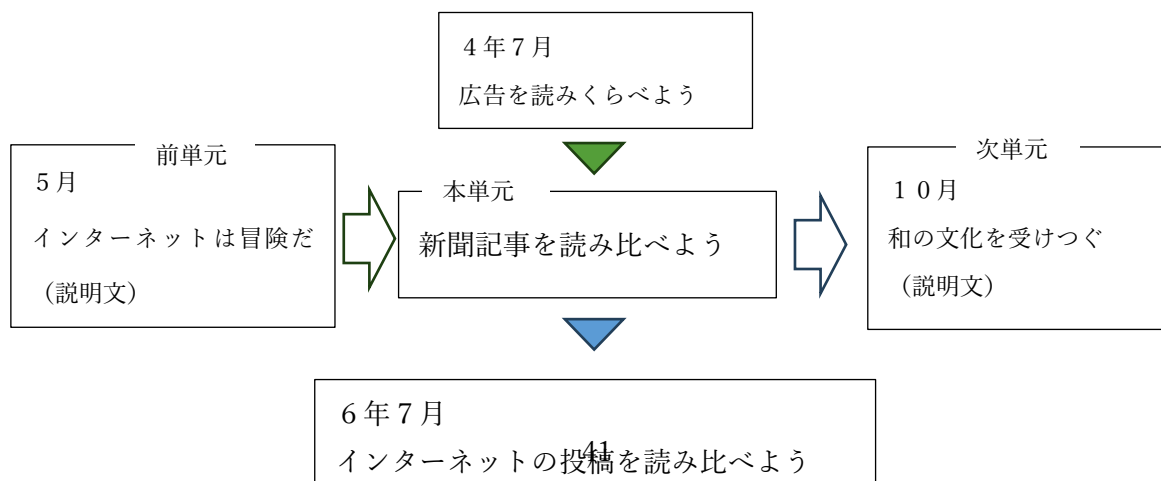
4. 目 標

○書き手が、記事の内容や見出し、写真に、どのような意図を込めているのかを考えることができる。

5. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報と情報との関係づけの仕方を理解している。(2)イ	・「読むこと」において、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。C(1)ア ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。C(1)ウ	・進んで記事の書き手の意図を読み、学習の見通しを持って、二つの新聞記事を読み比べて考えたことを話し合おうとしている。

6. 単元の関連と系統



7. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級において、インターネットなどで情報を収集することを好む児童は多い。国語科の3年『給食だより』を読みくらべよう」及び4年「広告を読みくらべよう」では、文章や広告の読み比べを通じて、文章の書き方や表現の仕方の工夫を読み取り、感想を持ったり、語句の役割に気づいたりする学習をした。5年の前单元「インターネットは冒険だ」では、要旨を捉える学習をした。また、社会科の「世界から見た日本」では、教科書やタブレットを用いて世界の国旗の意味や歴史、日本の地形や気候について調べ、必要な情報を得ることができた。

しかし、昨年度の学力経年調査の結果を見ると、「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する」問いの正答率は33.5%、「情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話す」問いの正答率は27.7%となっている。このことから、文章と図表などを結び付け、必要な情報を得てわかりやすく伝えることが苦手であることが分かる。

(2) 教材観

本单元は、小学校学習指導要領における〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」(1)ウ「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすること。」を指導するものである。

本单元では、主要メディアの1つである新聞を教材として取り上げている。新聞記事の種類、紙面の編集のされ方に加え、新聞記事を構成する見出しやリード、写真の役割などから、新聞の特徴を学んでいく。そして、2021年の東京オリンピックで活躍した選手についての2つの架空の記事を取り上げ、記事を構成する見出しや写真などを比較することで、それぞれの記事における書き手の意図や表現の違いを考えさせることをねらいとしている。

本单元の「言葉の力 記事の書き手の意図を読む」は、他教科の学習においても活用できる力である。例えば、社会科の新聞作りの活動では、書き手の意図に沿ってさまざまな情報を比較するなどして取捨選択し、文章や写真、図表などの情報を関係づけていく学習を展開していくことが可能である。また、発信者の意図を考えながらメディアの情報に接する、メディア・リテラシーの学習にもつなげていくことができる。

(3) 指導観

本单元では、2つの新聞記事を読み比べて、記事や写真の関係に注意させ、書き手の意図を考えることをねらいとする。

第Ⅰ次では、既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。まずは、新聞について知っていることを発表し合うなど、児童の新聞の認知度を確かめる。そのうえで、新聞の役割や「見出し」「リード」「本文」「写真・キャプション」などの記事の構成について確認していく。さらに、これまでの「表現の工夫を読み取る」学習を想起させるとともに、本単元で身につけたい「言葉の力」を確認する。その際、同じ内容を扱った複数の新聞を提示し、記事の構成や写真が異なっていることに気づかせたい。その気づきを基に、2つの記事を読み比べ、書き手の意図を考えること、記事と写真に合った見出しを書くことに取り組むという学習の見通しを持たせるようにする。

第Ⅱ次では、書き手が記事の内容や見出し、写真に、どのような意図をこめているのかを考える。まず、「見出し」「リード」「本文」「写真・キャプション」などの観点から、それぞれの記事の内容を確かめていく。「省略」「順序入れ替え」等の見出しの特徴などと合わせて、それぞれの記事の内容をつかませていく。次に、記事Aと記事Bの本文を読み比べ、見出しやリード、写真などさまざまな角度から共通点や相違点を整理し、それを基に書き手の意図を考える。その際、写真と文章とを関係づけ、写真の役割についても触れる。記事の本文に合わせて掲載された写真には、文章の内容を表すだけでなく、書き手のメッセージを強調する役割がある。何が写っているか、表情や動作、しぐさ、違う写真が掲載されていた場合との比較などから、書き手の意図を考えさせたい。

本時では、2024年のパリオリンピックに関係する既存の小学生新聞の記事を用いて、伝えたいことの内容の中心を捉えた見出しを考えて書く活動に取り組んでいく。取り扱う新聞記事は数種類用意し、一人一人が関心を持った記事で取り組めるようにする。見出しは、記事の「究極の要約」であるといえる。見出しを考えるうえで、リードや本文を要約したり、写真を読み解いたりすることは必須となる。まず、キーワードとなる言葉に注目する。その後、論の進め方を意識する。そして、短くてわかりやすく、続きを読みたくなるよう2～3つの単語を効果的に使った見出し作りに取り組む。グループでの話し合いにて、伝えたいことが伝わる見出しになっているか、読みたくなる見出しになっているかを議論し、グループで1つの見出しを作るようにする。

第Ⅲ次では、本単元の学習を振り返り、学んだことを確かめていく。振り返りの活動は、①情意面での振り返り、②言語活動の振り返り、③学び方の振り返りの3つの方法で行う。①情意面での振り返りでは、実際に新聞記事について知ったり、記事を読み比べたり、見出しを付けたりした活動について、感想を共有しながら振り返らせる。②言語活動の振り返りでは、「新聞の役割」「新聞記事の構成」「写真の役割」「記事の特徴」など、学習を通して身に付けた知識や「言葉の力」を、活動の流れに沿って振り返らせ、学んだことをより自覚的なものとして認知させていく。③学び方の振り返りでは、「比べ読み」や「関連づけて読む」ことなどの学び方に焦点化した振り返りを行う。これらの振り返りを通して、総合的な学習において平和学習での新聞作りやほかの言語活動に生かす力につなげたい。

8. 指導計画（全6時間）

次	時	主な学習活動	主な評価規準
I	1	○新聞について知っていることを発表し合 って学習への興味や関心を持つ。 ○新聞の特徴や構成について知るととも に,学習の流れを確かめ,単元の見通しを 持つ。	・ 学習内容をつかみ,新聞の特徴 や構成への興味や学習への意 欲を持つことができる。 【主】 ・ 新聞の特徴や構成について理 解している。 【知・技】
II	2	○2つの記事の内容を確かめる。 ・ 「見出し」「リード」「本文」「写真・キャ プション」の観点から,分かることを読 み取る。	・ 文章や写真を基に,それぞれの 記事の内容を捉えることがで きる。 【思・判・表】
	3	○2つの記事を読み比べ,伝えたいことの 中心を考える。 ・ 記事Aと記事Bを読み比べ,共通点と相 違点を捉える。	・ 記事を読み比べて整理した共 通点と相違点を基に,伝えたい ことの中心を考えることがで きる。 【思・判・表】
	4	○新聞記事を選び,伝えたいことの中心を 考える。 ・ 見出しを切り抜いた新聞記事の内容と写 真を基に,伝えたいことの中心を考え る。	・ 記事を読み,伝えたいことの中 心を考えることができる。 【思・判・表】
	5 (本 時)	○記事に合った見出しを書く。 ・ 既存の新聞記事を用いて,記事に合った 見出しを考えて書く。	・ 伝えたいことの中心を考えな がら,選んだ新聞記事に合った 見出しを書くことができる。 【思・判・表】
III	6	○自らの学びや学び方を振り返る。 ・ 情意面,言語活動,学び方の3つの振り返 りを行う。	・ これまでの学びや学び方を振 り返り,伝えたいことの中心を 読み取ることのよさに気づき,

			今後に生かそうとしている。 【主】
--	--	--	---------------------------------

9. 本時の学習（本時5／6）

（1）目標

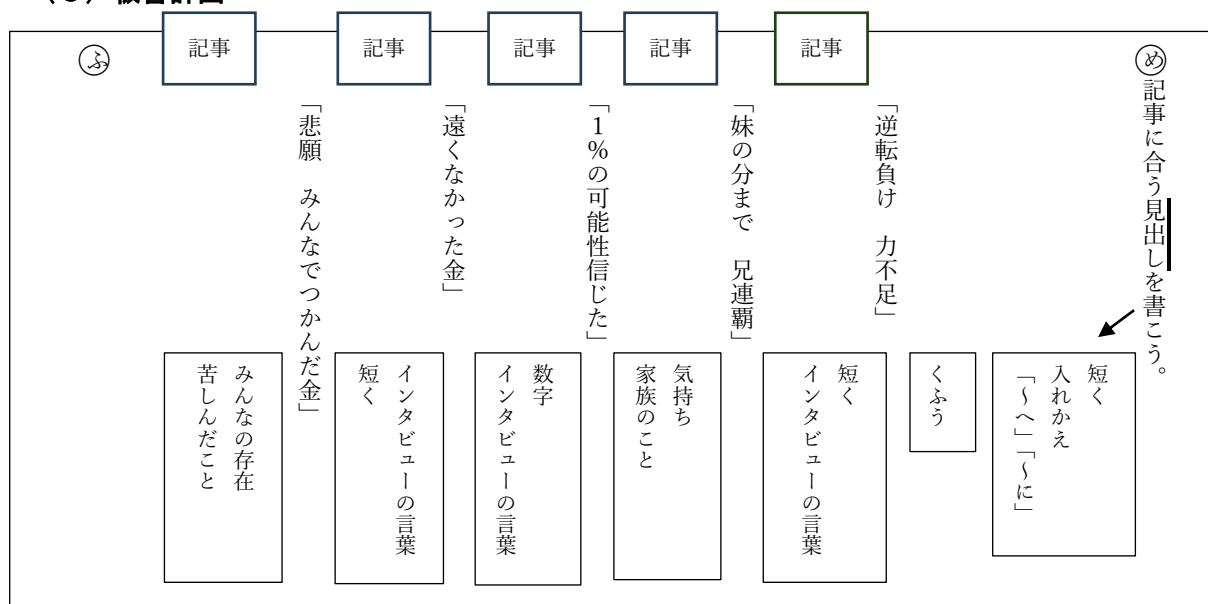
記事に合う見出しを書くことができる。

（2）展開

学習活動	指導上の留意点（指導者の指導・支援）	評価規準方法
1. 本時のめあてを確認する。		
④記事に合う見出しを書こう。		
2. 見出しを書く。	・見出しの書き方を確認し、一番伝えたいことが伝わる見出しを考えることを押さえる。 （短く・言葉の入れ替えなど） ・考えた見出しを発表ノートに書き込むことで、グループで見られるようにする。	
3. 見出しをグループで議論し、1つの見出しに絞る。	・同じ記事ごとにグループを作る。 （バレーボール・柔道・スケートボード男子・スケートボード女子・体操） ・見出しを見合って、一番伝えたいことが伝わる見出しになっている見出しはどれかを話し合えるようにする。 ・議論した内容から、一番伝えたいことが伝わり、読みたくなる見出しをグループで1つに絞るように伝える。 その際、他の見出しの言葉を取り込むなどして、修正してもよいことを助言する。 ・途中、別のグループと意見交流する時間を設け、伝えたいことが伝わっているか、相互で確認できるようにする。	・伝えたいこと の中心を考えながら、記事に合った見出しを書くことができる。 【思・判・表】 （ノート・発表）

4. グループで考えた見出しを発表する。	・グループの見出しと,工夫したことを発表できるようにする。 ・見出しを作るにあたって大切なことをまとめる。	・事実と感想,意見などとの関係を記事を基に押さえ,文章全体の構成を捉えて考えたことを伝えることができる。 【思・判・表】 (発表)
5. 本時の学習を振り返る。	・友だちの意見を聞いて新しく気づいたことや学びにつながったことを問いかけ,振り返る。	

(3) 板書計画



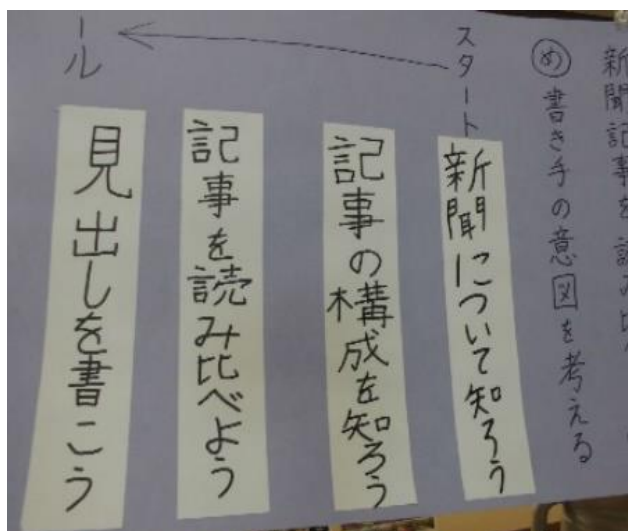
10. 成果と今後の課題

①基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための授業方法の工夫

○言語活動として、既存の新聞記事を用いた「見出しづくり」を設定することで、文章の構成を捉えたり、筆者の論の進め方の工夫を考えたりすることを、意識して学ぶことができた。

○「記事に合う見出しを書こう」というめあてを設定することで、写真を含む多くの情報を整理し、一番伝えたいことが伝わる見出しを考えることができていた。

●キーワードや伝えたいことを、本時までに各自でまとめていたのだが、見出しをつくる本時でそのノートを読み取る時間が少なく、各々にとってのよりよい見出しになるまでに時間がかかった。



「わかる」「できる」「楽しい」を意識した学力向上に向けての取り組み

○グループでの話し合い活動では、多くの児童が自分の意見に根拠を持って発表することができた。

○同じ記事を選んだ児童でグループを編成することで、自分の考えとグループの友達の考えを比べやすく、意見を出す児童が多くいた。

●反論や意見があまり出ず、よりよい見出しにつながる討論になりづらかった。意見を出すための視点を伝えるほうがよかった。

●完成した見出し1つだけ発表する方法もよいが、悩んだ2つを発表するようにすると、全体交流が活発しやすくなる。

② その他

○沖縄戦に関する新聞づくりにも「見出し」の視点が活用できていた。

○本単元終了後も、「またやりたい」と意欲的な声があった。



第6学年国語科学習指導案

1. 日 時 令和6年6月25日（火） 第5時限 （13:50～14:35）

2. 学年・組 6年2組 （25名）

3. 単元名 人物同士の関係について話し合おう
「風切るつばさ」（東京書籍6年）

4. 目 標

○描写をもとに、登場人物の相互関係を捉えたうえで、心情の変化を読み取ることができる。

・図示することによって情報を整理することを理解し使うことができる。【知・技】(2)イ

・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉えることができる。【思・判・表】C(1)イ

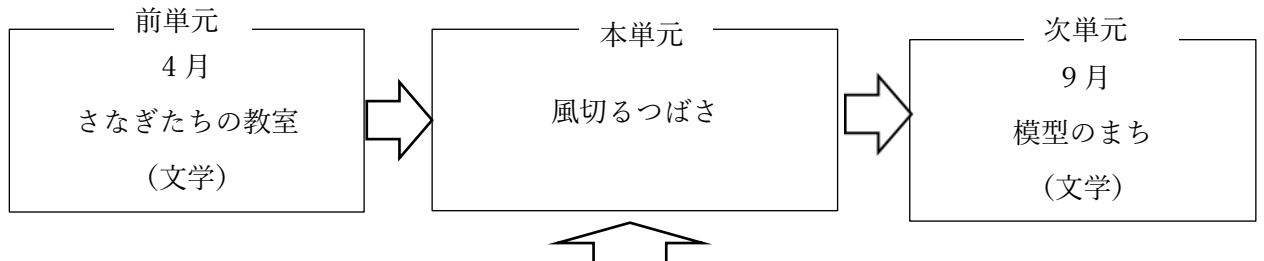
・「書くこと」において、自分の考えが伝わるように、事実と感想や考えとを区別して書くことができる。【思・判・表】B(1)ウ

・進んで登場人物の相互関係を捉え、考えたことを話し合うことができる。【主】

5. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図示することによって情報を整理することを理解し使っている。 (2)イ	「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉えている。 C(1)イ 「書くこと」において、自分の考えが伝わるように、事実と感想や考えとを区別して書いている。 B(1)ウ	進んで登場人物の相互関係を捉え、考えたことを話し合おうとしている。

6. 単元の関連と系統



5年6月 世界でいちばん やかましい音	5年11月 大造じいさんと がん
---------------------------	------------------------

7. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級の児童は、国語科の物語や道徳の授業を通して中心人物の気持ちやそれを取り巻く状況について考えることが好きな児童が多い。第5学年「世界でいちばんやかましい音」の学習では、登場人物の関係とその変化を捉えるために、人物の行動に着目して読み、登場人物の気持ちを自分なりに想像し、読み取ることができた。また、「大造じいさんとガン」では、初発の感想を基に読む視点を整理し、叙述を基に情景描写から心情を読み取ったり、「大造じいさん」と「残雪」との関わりを想像したりすることを経験した。4月に学習した「さなぎたちの教室」では、「わたし」の性格や心情が表れている部分を基に「わたし」の人物像を読み取り、心情と情景描写のつながりについて学習した。

しかし、登場人物の気持ちや状況を読み取ることができても、「なんとなく」やイメージで話してしまい、理由や根拠を明確にして文章に書き表すことに苦手を感じている児童もいる。昨年度の学力経年調査の結果を見ると、「物語を読み取る」問いに対しての正答率は74.5パーセントだったのに対し、読み取った内容を文章にする「ポスターを作る」という問いの正答率は54.9パーセントと正答率が6割を切っていた。このことから、理由や根拠を見つける力には個人差があることがわかる。

(2) 教材観

本教材は、仲間に対して不信感を抱き、自己嫌悪の果てに空を飛べなくなった中心人物クルルが、カララの寄り添いによって、自他への信頼を回復し、再び飛べるようになったことを描いた物語である。クルルの心情は直接書き込まれている箇所が多いが、カララの心情が直接書き込まれている箇所はない。したがって、カララの様子をクルルがどのように解釈したのかを読み取っていくことにより、登場人物の相互関係をつかんでいくことができる。クルルの心情は、直接表現以外に「つばさ」の音や羽ばたきにより象徴的に表現されている。そのような行動描写の変化から心情を想像することができる。また、人物の心情を多様に解釈でき、それぞれの解釈について議論できる教材ともいえる。

(3) 指導観

本単元では、一方の登場人物の行動や様子、会話などがほかの登場人物にどのような影響を与えているのかを想像することを通して、人物相互の関係を捉え、心情の変化を読み取る力をつける

ことをねらいとする。

第Ⅰ次では、初発の感想の交流から、学習の山場を決め、クルルとカララの関係性を捉えて中心人物であるクルルの心情の変化について考えるという本単元の学習課題を明確にする。まず、これまでに学習した物語の中で、登場人物の相互関係の変化があった物語を振り返るようにする。どのような物語のどのような人物に関係の変化があったのかを具体的に振り返らせることで、クルルとカララの関係性を読み取ることに興味を抱くことができるようにする。次に、初めて物語に出会うときには、デジタル教科書の音読機能を使い、全文を確認できるようにする。その際には、印象に残った文章や、疑問に思った文章に波線を引かせることで、自分が学習したい場面を明確にする。印象に残ったことや疑問に思ったことをもとに、初発の感想を書き、全体で交流できるようにする。交流したことから、学習計画を考えることで、児童の学習意欲を高めたい。第Ⅲ次で行う「読書カードを作ろう」という言語活動を知らせることで、人物相互の関係をつかむという学習課題をつかませたい。この言語活動では、教科書の風切るつばさの単元で紹介されている物語を並行読書し、学習したことを生かして物語紹介カードを作れるようにする。その際に、指導者が作成した物語紹介カードを提示し、学習に対する意欲を高め、見通しを持たせるようにする。

第Ⅱ次では、人物と人物との関係や、お互いをどう思っているかということを、場面ごとに人物関係図にまとめ、気持ちの変化を捉えられるようにしていく。人物関係図では、本文の叙述を根拠に、登場人物の気持ちをまとめていくことで、登場人物の気持ちを考える際に根拠や理由を明確にすることが苦手な児童にも、捉えられるようにする。また、登場人物ごとに色分けをすることで、視覚的にも整理できるようにする。さらに、群れの中で孤立を深めるクルル、クルルをかばえないカララなど、それぞれの立場を明確に捉えられるように、問いかけていきたい。

本時では、第五場面を取り上げ、クルルとカララの関係を図にまとめ、気持ちを読み取る。前時でワークシートに書き込んだカララの「カララは何も言わなかった」などの描写から第五場面に表現されているカララの覚悟を読み取れるように展開していく。人物関係図を使ってクルルがカララの覚悟に気づいたことを押さえ、中心発問であるクルルが飛びたてた時の気持ちを考える活動につなげていきたい。また、クルルが飛びたてた時の様子を表している叙述に線を引かせることで、クルルの気持ちの根拠となる部分を押さえたいけるようにする。ここに出てくる「つばさの表現」は前時までで確認している「自信のない時のクルル」の「つばさの表現」と比較することで、クルルが自信を取り戻したことに気づかせたい。クルルの気持ちは、まずはペアで交流し、全体発表の時に自信をもって発表できるようにする。順序だてて話すことが苦手な児童には、話型を提示し、活動に参加できるように支援していく。

第Ⅲ次では、教科書の風切るつばさの単元で紹介されている物語の、並行読書してきたものから一つ教材を選び、その物語を一文で表し、物語紹介カードに書く活動を行う。まず、ここまでの学習で作り上げた人物関係図を確認し、人物相関図が物語の読みを深め、内容の理解に効果的である

ことに気づくことができるようにする。次に、自分の選んだ物語の人物相関図を作成し、そこから、要点をまとめた物語紹介カードを作成する。これらの活動を通して、文章の大事な部分を適切にまとめる力、そしてそれを伝える力を身につけさせると共に、物語について友達と語り合うよさやおもしろさに気付くことができるようにする。

8. 指導計画（全8時間）

次	時	主な学習活動	主な評価規準
I	1	○ これまでに読んだ物語の中で、心に残っている人物どうしの関係を想起する。 ○ 初発の感想から学習の見通しを立てる。 ○ 人物どうしの関係を捉えながら、中心となる人物の心情を考えるという本単元のめあてを確かめる。	・ 学習内容をつかみ、物語文への興味や学習への意欲を持つことができる。 【態度】 ・ 文章を音読することができる。 【知・技】
	2	○ 学習計画を立て、「物語紹介カードをかこう」という第Ⅲ次の言語活動を知る。 ○ 場面分けをする。 ○ 語句の意味調べをする。	
II	3	○ 第一場面、第二場面のクルルとカララ、群れのみんなの関係を図にまとめ、交流する。	・ 図示することによって情報を整理することを理解し使うことができる。 【知・技】 ・ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉えることができる。 【思・判・表】 ・ 事実と感想、意見を区別して書き、自分の考えが伝わるように工夫することができる。 【思・判・表】 ・ 進んで登場人物の相互関係を捉え、考えたことを話し合おうことができる。 【態度】 ・ 自分の考えを、根拠を挙げて書くことができる。 【知・技】
	4	○ 第三場面、第四場面を読み取り、クルルとカララの間を人物関係図にまとめ、交流する。	
	5 (本時)	○ 第五場面を読み取り、クルルとカララの間を人物関係図にまとめ、交流する。 ○ 友達の意見を聞いて、自分の考えが変わったことを考える。	
	6	○ 物語に対する感想や考えを書き、交流する。	

Ⅲ	7	○ 物語紹介カードを作成する。	・登場人物の相互関係を捉えた上で、物語紹介カードを書くことができる。 【思・判・表】
	8	○ 作成した物語紹介カードを読み合う。	

9. 本時の学習（本時5／8）

（1）目標

クルルとカララの関係を図にまとめ、気持ちを読み取ることができる。

（2）展開

学習活動	指導上の留意点（指導者の指導・支援）	評価規準方法
1. 本時のめあてを確かめる。	○これまでの学習を振り返り、なぜ、クルルは「たとえ飛べたとしても首を横に振るつもりだった」のかを振り返り、本時のめあてにつなげる。	
㊦ クルルが飛び立てた時の気持ちを考えよう。		
2. 本文（第五場面）を音読する。P82L2～P83L14 ・列ごとに一文読み	○クルルとカララの心情がわかる叙述を見つけながら読むようにする。	
3. クルルとカララの間を人物関係図に表す。	○前時でワークシートに書き込んだカララの描写と気持ちを確認する。 ・第五場面では、「覚悟」として表現していることも押さえる。 ○クルルの心情がよくわかる叙述に線を引き、クルルのカララへの気持ちを人物関係図にまとめる。 ・P82L5「そうか、おれが飛ばないとこいつも…」に続く言葉を考えさせる。 ・クルルのカララを死なせたくない気持ちに気付かせる。	○叙述を基に登場人物の心情や関係を考えることができる。（ワークシート）【知・技】
4. クルルが飛び立てた時の気持ちを考える。	○クルルが飛び立てた時の様子を表している部分に赤で線を引かせる。 ○クルルの気持ちが一番強く表現されていると思う一文を選び、そのときのクルルの気持ちを考えさせる。	

5. ペアで意見を交流する。	○友達の見聞き、自分の意見との共通点や相違点に気付くことができるようにする。	○根拠をあげて、考えを伝えることができる。 (交流・発表) 【思・判・表】
6. 全体で意見を交流し、本時の学習をまとめる。	○前時までのつばさの描写にも着目し、クルルが自信を取り戻したことに気付くことができるようにする。	○友だちの意見と比べて、自分の考えを書くこと
7. 振り返りをする。	○本時の学習から学んだことを自分の考えとして書けるようにする。	○友だちの意見と比べて、自分の考えを書くこと
⑤ 再び飛ぶことで、カララのことを助けた自分がほこらしかった。 ⑥ 再び飛ぶことで、カララのことを助けた自分がほこらしかった。 ⑦ 再び飛ぶことで、カララのことを助けた自分がほこらしかった。	⑧ 再び飛ぶことで、カララのことを助けた自分がほこらしかった。 ⑨ 再び飛ぶことで、カララのことを助けた自分がほこらしかった。 ⑩ 再び飛ぶことで、カララのことを助けた自分がほこらしかった。	⑪ 再び飛ぶことで、カララのことを助けた自分がほこらしかった。 ⑫ 再び飛ぶことで、カララのことを助けた自分がほこらしかった。 ⑬ 再び飛ぶことで、カララのことを助けた自分がほこらしかった。

自信が
ついた

め

クルルが飛びたてた時の気持ち
考えよう。

覚悟を知った

クルル

覚悟

心解けていく気がした

カララと、カララのことを
信じた。

カララのことを助けた。

カララ

カララは飛びたてた時のクルルの気持ち
よう、クルルはカララを突き飛ばす
ように羽ばたいた。

パワーがあつた文章でもすくなく思ふ。

力いっぱい羽ばたくと、風の中を
体がぐんぐんと登っていく。

風を切るつばさの音が、こちよいリズム
で体いっぱいひびきわたった。

さういふ、つばさの音が今は好きになつて、
夢中になつて飛んでいる。

カララのおかげで自信をとり
つばさを大きく羽ばたかせ、どこま
でもどこまでも……

カララを信じて、どこまでも飛んでい
く。僕たちならどんな山でも飛んでいける。

クルルはカララのおかげで自信を取り
もどし、また生きたいと思ふ。

考

飛びたてた時のクルルの気持ち

クルルは飛びたてた時のクルルの気持ち
よう、クルルはカララを突き飛ばす
ように羽ばたいた。

パワーがあつた文章でもすくなく思ふ。

力いっぱい羽ばたくと、風の中を
体がぐんぐんと登っていく。

風を切るつばさの音が、こちよいリズム
で体いっぱいひびきわたった。

さういふ、つばさの音が今は好きになつて、
夢中になつて飛んでいる。

カララのおかげで自信をとり
つばさを大きく羽ばたかせ、どこま
でもどこまでも……

カララを信じて、どこまでも飛んでい
く。僕たちならどんな山でも飛んでいける。

クルルはカララのおかげで自信を取り
もどし、また生きたいと思ふ。

10. 成果と今後の課題

①基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための授業方法の工夫

○導入を短くし、簡潔にわかりやすく本時のめあてを児童が理解できた。

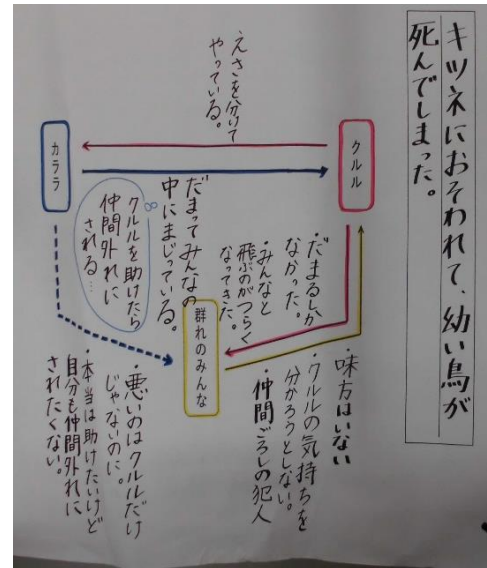
○課題を共有してからの音読だったため、読み取りたいことを意識しながら音読できた。

●振り返りは、記憶からではなく人物関係図から振り返らせえたほうが復習になった。

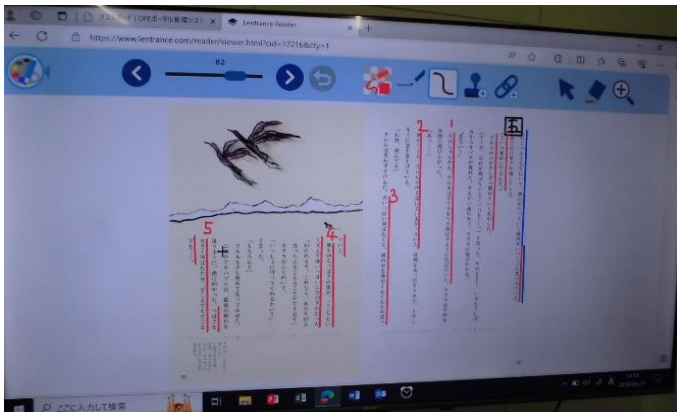
○叙述を確認し、誰の行動か一つ一つ確認したことで理解を深めることができていた。

○一つの文を選ぶことで、意見が書きやすくなった。

●登場人物の変容前と変容後の心情を考える授業であったが、変容の理由を考えることができたならもっと理解を深められたのではないかな。



②「わかる」「できる」「楽しい」を意識した学力向上に向けての取り組み



●一問一答形式の時間があつたため、児童にもっと任せた授業づくりが必要。

○全員が動きのある活動ができていた。

●一人ひとり、立って考えながら読む活動は、次やる活動につながっていたが、読解につなげるためには着席して、ラインを引きながら読むのがふさわしかった。

○授業の時間配分が適切で、発表、振り返りまでできたことで、児童に達成感が生まれた。

○ICTの活用や、本文の提示、教室掲示があつたため、視覚的に授業に集中できる環境が整っていた。

特別支援学級第5学年国語科学習指導案

1. 日 時 令和6年12月6日 5時間目
2. 学年・組 特別支援学級 5年生(3名)
3. 場 所 さくらんぼ教室3
4. 単 元 名 人物像について考えたことを伝え合おう

「大造じいさんとがん」 (東京書籍5年)

5. 目 標

- 行動や会話などから大造じいさんの人物像を想像し、考えたことを伝え合うことができる。

- ・文章の構成や展開について理解している。

【知技1】(1)カ

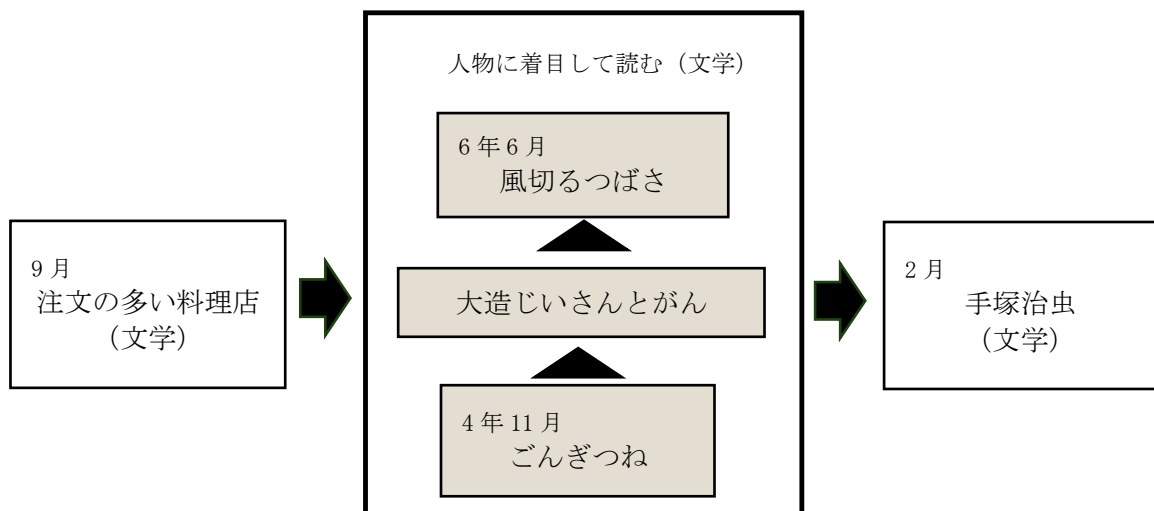
- ・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉えている。

【思判表1】C(1)イ

- ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。

【思判表2】C(1)エ

6. 単元の関連と系統



7. 指導にあたって (ア) 児童の実態

本単元では、5年生3名による小集団で指導を展開する。A児は、診断は受けていないが、学習面に遅れが見られ、特に漢字が苦手である。音読では読めない字が多く時間がかかってしまうほか、語彙も少なく音読だけでなく表現活動でも時間がかかってしまうことがある。書字も苦手で乱れることがある。さらに指導者の質問の意図を正確に理解することが難しい。また、こだわりが強く、自分のなかで決めた順序を守れないと次の行動に移れないことがある。

る。B 児は、発達障害の診断がある。漢字の形を捉えることが苦手で、書字に時間がかかる。また新しいことに取り組む時には、どのようにすればいいかわからず困っていることがあり、時間がかかる。C 児は、自閉症スペクトラムと発達障害の診断があり、授業中に筆記用具で手遊びをする姿がよく見られる。普段は視写や書字にあまり時間はかからないが、集中が続かなくなると視写や書字に時間がかかる。また一問一答や短い文章から読み解くことは得意だが、長い文章から読み解くことは苦手である。

以上の3名は、これまで「おにぎり石の伝説」、「注文の多い料理店」を学習している。「おにぎり石の伝説」においては、叙述をもとに心情を捉え、音読表現の工夫につなげることができた。「注文の多い料理店」では登場人物の会話や行動から心情を捉えることができた。さらに山猫の立場からの気持ちを汲み取り、注文の意図を読み取ることができた。このことから言動や行動をもとに心情を捉える力が十分についていると言える。

(イ) 教材観

本単元の重点指導事項は、小学校学習指導要領における〔思考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと」(1)エ「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」である。また、(1)イ「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。」についても扱う。

本単元は、中心人物である大造じいさんと、がんの頭領の残雪との戦いを中心に描いた物語である。年の変化により、全体が大きく四つに分かれている。「一」から「三」では、大造じいさんの計略とその結果、そして「三」の後半からは、残雪の「仲間」を守ろうとする姿や、頭領らしい姿に接して大造じいさんの心情の大きな変化が描かれている。残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み取ることで、人物像を考えることのできる教材である。

(ウ) 指導観

本単元では残雪との関係に基づいた行動や会話、その時の大造じいさんの心情から人物像を想像し、考えたことを伝え合う取り組みを言語活動として設定した。この活動を充実させるためには、まず、第一次では物語のあらすじを正確に捉えることが必要になる。そのため大造じいさんの計略とその結果を中心に、各場面のあらすじをまとめていくこととする。また物語の中には普段聞きなれない言葉が多く見られ、その多くが人物像や物語の全体像をイメージすることに直結している。児童は発達段階的にも語彙が少ないことから、物語を読み解くにあたり必要な語句は、タブレットを用いて意味を調べ、図や映像を用い理解を図る。また漢字が定着していない児童には、漢字にルビが振ってある教材を用意するなどの配慮を行う。

次に第二次では人物像を想像する材料として、残雪の行動により変化する大造じいさんの心情を捉えていく。そのために大造じいさんの計略にける思いを押さえ、大造じいさんの中の残雪への認識を想像していく。中でも特に「三」の場面後半での残雪に対する心情の大きな変化や、「四」の場面での直接的に描かれていない残雪への心情を想像させることは、人物像を想像する際の大きな手がかりとなるので時間をかけて取り組ませたい。また直接的に描かれていない心情の描写として、本単元では情景描写がある。このような表現の工夫からも心情を捉えることができることを抑え、より深く大造じいさんの心情に迫らせたい。

そして第三次では、大造じいさんの人物像について想像していく。その際に、部分的な場面での心情からではなく、物語全体の流れや変化を振り返らせながら想像させたい。そのため、大造じいさんの残雪に対する心情や計略にける思いなど、人物像を考える心情の観点を決定した上で、想像するように指導していく。

本学級の児童は視写、書字に時間がかかる特性を持つ児童が在籍していることから、本単元では穴埋め式及び一問一答形式のワークシートを用いて行う。これにより単元目標の達成に注力する時間を補う。また心情を想像しにくい児童への支援方法として、大造じいさんになりき

り場面ごとのまとめで「大造じいさん日記」を書く。これは心情を想像しにくい児童にとってだけでなく、場面の心情の変化の流れを整理できるためどの児童も同様に用いる。また本学級の児童はタブレット学習にとっても意欲的であることや、まとめ部分を共有する際に便利であることから「大造じいさん日記」はスクールライフノート上で利用する。

A 児は、質問の意図を正確に理解することが難しい一方で視覚情報を処理することは得意である。そのためワークシートに発問を書き記すことで問いを正確に理解できるようにする。それでも理解が難しい場合には個別に声を掛け理解を促す。またワークシートでイラストを用い、その位置関係など構造も工夫することにより、考えることの内容を掴みやすくする。

B 児は、単元の流れやワークシートなどの書き込み方を ICT 等の視覚情報を用いながら説明を行い、あらかじめ理解を図る。それでも理解できない場合は再度説明するなど、個別の声かけを行うことで理解を促す。

C 児は、読みの活動が得意であるため読みの活動を毎時間入れることにより、授業への意欲を高めたい。集中する時間を増やすため、発表の時間や交流の時間など声を発する時間を間に入れることにより、集中して問題を解く時間とのメリハリをつける。また長い文章から読み解くことが苦手なため、段落内でも発問に対する内容が書かれているところを含め、できるだけ物語を小分けにして進めるほか、一問一答形式の問いで構成されたワークシートを用いる。

(エ) 児童の実態と個別目標

児童	単元における実態	単元における個別の目標
A 児	・集中力が持続せず、やる気がでない時には学習に参加しないことがある。 ・漢字の読み書きが小学校2,3年生程度。 ・書字はゆっくりで時間がかかる、また字が整いにくい。 ・場の状況や話の流れを捉えることは得意だが、会話文や描写から人物の心情を捉えることが苦手。 ・自分の考えを順序立てて文章にまとめることが苦手。	・最後まで学習に取り組むことができる。 ・場面ごとに文章を正しく音読することができる。 ・国語の表現に必要な漢字や語彙を増やす。 ・登場人物の相互関係や心情を描写から捉えることができる。 ・「大造じいさん」の心情や人物像をワークシートに丁寧に記入し、発表することができる。
B 児	・音読は流暢に読むことができる。 ・字の形を捉えるのが苦手、字が整いにくい。 ・場の状況や話の流れ、会話文から人物の心情を読み取ることは概ねできるといえる。	・情景描写など表現の効果について考えることができる。 ・登場人物の相互関係や心情を、描写から捉えることができる。 ・「大造じいさん」の人物像をワークシートに丁寧に記入し、発表することができる。
C 児	・集中力が持続せず、気が散りやすい。 ・音読は流暢に読むことができ、独自の表現方法で読むことができる。 ・書字はゆっくりで時間がかかる、また字が整いにくい。 ・場の状況や話の流れから人物の心情を読み取ることは概ねできるといえる。	・最後まで学習に取り組むことができる。 ・相手を見て最後まで話を聞くことができる。 ・情景描写など表現の効果について考えることができる。 ・登場人物の相互関係や心情を、描写から捉えることができる。 ・「大造じいさん」の人物像をワークシートに丁寧に記入し、発表することができる。

8. 指導計画（前8時間）

次	時	主な活動内容	主な評価基準
第1次	1	○学習の流れを確認し、見通しを持つ ・本単元で身につけたい力を確認する。 ・関連する既習事項を振り返り、見通しを持つ。 ・「大造じいさん日記」について説明する。 ○物語の通読を聞く ・わからない語句に印をつける。 ・行動（赤）、会話（黒）の部分に線を引く ・初発の感想を書く。 ○文章内で出てくる語句の意味調べ(3人で手分けして調べる)	・学習内容をつかみ、物語文への興味や学習への意欲を持つことができる。 【態度】
	2	○物語全体のあらすじを時系列で並べ、確認する ・「一」の場面の時、場所、人物の設定を確認し、計略と結果を表にまとめる。(全体) ・「二」、「三」、「四」も同様に表にまとめ発表し合う。(個人) → (全体) ○物語のあらすじを確認し、本時の学習を振り返る。	・文章の構成について理解している。 【知・技】
第2次	3	○「一」の場面での心情理解 ・めあてを確認し、「一」の場面を音読する。 ・大造じいさんと残雪の関係を読み取る。 ・「一」の場面の計略において大造じいさんの心情が表れている部分を抜き出す。 ・「一」の場面での大造じいさんの心情の変化を抜き出した部分を根拠に想像する。 ・本時の学習を振り返り「大造じいさん日記」を書き共有する。	・大造じいさんの心情が表れている部分を抜き出すことができる。 【知・技】
	4	○「二」の場面での心情理解 ・「一」での活動に加え、「一」と「二」において計略の内容の違いや大造じいさんの心情の変化について比較しまとめる。	・登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉えている。 【思判表】
	5	○「三」の場面での心情理解 ・計略にかけける思いや、はやぶさから仲間を守ろうとする残雪に対する思いから大造じいさんの心情の大きな変化をまとめる。	・進んで登場人物の相互関係や心情を捉えている。 【態度】
	6	○「四」の場面での心情理解（本時） ・残雪を見送る大造じいさんの心情をまとめる。	

第3次	7	○大造じいさんの人物像について考える ・人物像を想像するための観点を決めて分析する。 〔観点の例〕 ・三回の計略で共通していること ・三回の計略で変化していること ・残雪に対する捉え方の変化 ・「三」の場面で、はやぶさと戦う残雪を見た時の反応 ・初発の感想の時と感じた違い ・捉えた人物像から、小見出し短冊を作成する。	・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。【思判表】 ・進んで登場人物の相互関係や心情を捉え、人物像について考えたことを話すことができる。 【態度】
	8	○大造じいさんの人物像について考え、交流する ○単元の学習を振り返り、まとめる。	

9. 本時の学習(本時 7/8 時)

(1) 目標

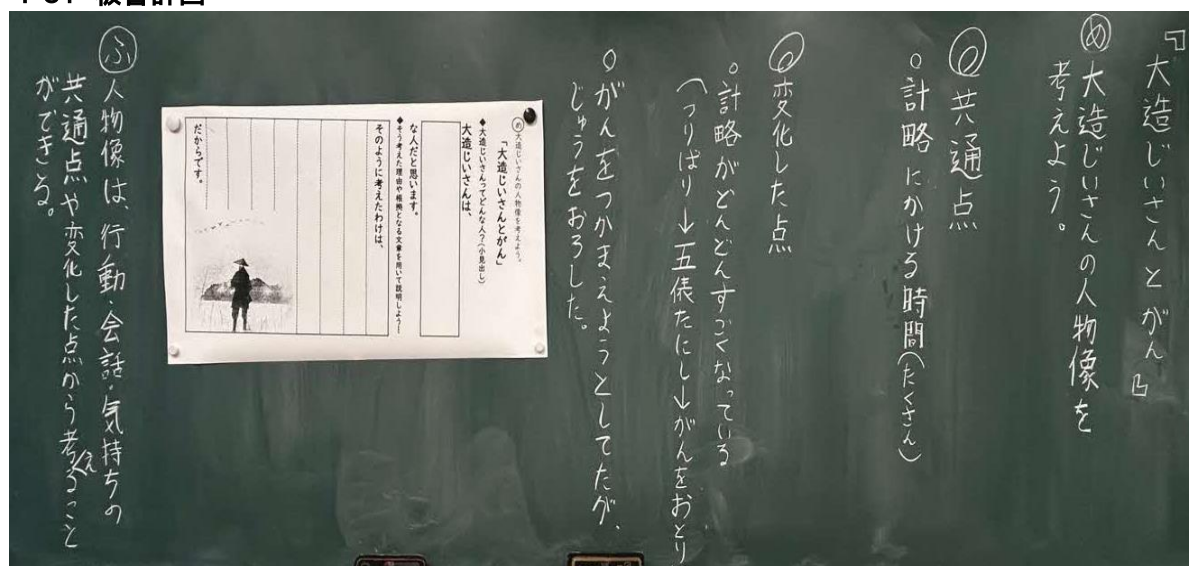
行動や会話などから大造じいさんの人物像を想像することができる。

(2) 展開

具体的な活動	指導上の留意点	評価規準方法
1. 前時までの学習を想起する。	・学習の流れを見ながらこれまで学習したことを振り返り、人物像を考える準備ができたことを確認する。	
め：大造じいさんの人物像を考えよう。		
2. 本時のめあてを確認し、他の人気なキャラクターなどを用いて、人物像を想像する練習をする。	・人物像を想像しやすい行動や会話が安易に想像できる人気キャラクターを用い、理由なども含めて一度練習し、人物像を想像する時の手立てを示し活動の見通しを持たせる。	
3. 大造じいさんの人物像を想像し、次時の発表に向け文章にまとめる。	・これまで学習してきたことを「行動」「会話」「気持ち」について端的に振り返り、人物像を想像する観点を明らかにする。 ・言葉について関連のあるものを前に示し、考えの補助とす	人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 【思判表 2】C(1)エ (ワークシート)

4. 考えた大造じいさんの人物像について発表する 5. 本時の学習を振り返る	人物像についての性格などの。どうしても表現したい内容の言葉がわからない場合はタブレットを用いて調べる。 ・ワークシートに文章のはじめと終わりのひな型を用意しておくことで、自分の考えたことを書き入れることで発表できるようにする。 ・本時の学習のまとめをし、振り返り、次時につなげる。	進んで登場人物の相互関係や心情を捉え、人物像について考えたことを話すことができる。 【態度】
--	--	--

10. 板書計画



11. 成果と今後の課題

①基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための授業の工夫

○親しみやすいアニメのキャラを用いて「人物像」の考え方を振り返ったことで、本時の活動の見通しが立ち、人物像について教科書に線をひいた部分から自分の考えを持つことができていた。

○人物像に関するキーワードを毎時間、黒板に書き留めておくことで、その言葉を使って表現する機会が増え、語彙の獲得につながった。

○大造じいさんの人物像に迫る情報(心情や情景描写、行動、言動)に線を引き、その共通点や相違点を確認することで、これまで学習してきた内容を振り返りながら人物像を考えることができた。

●人物像に迫る情報集めを主な活動として行ったことで場面一つひとつの様子を捉えることはできていた。一方であらずじ全体の流れが理解できておらず、物語を読めていなかったため、人物像を捉える際に振り返りに時間を要し、深めることが難しかった。

●イラストや画像など視覚的な情報が少なかったため、場面や登場人物の様子を、想像することに時間を要した。

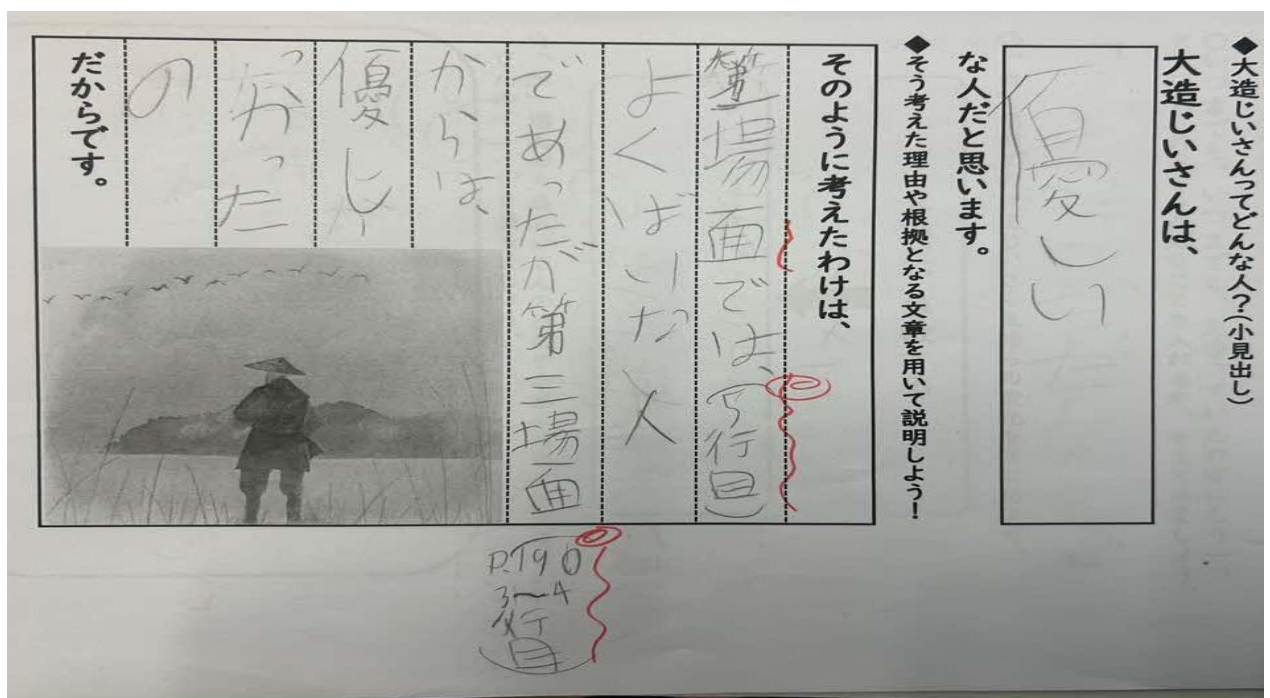
②「わかる」「できる」「楽しい」を意識した学力向上に向けての取り組み

○ワークシートに考えと理由を書き込み書いた通りに読むことで、発表の際には自分の意見をうまく伝えることができた。また、この経験が「発表できた」という自信につながっていた。

○毎時間の中で大造じいさんの情報を集める中で、情報の見つけ方が定着していくと、他にも「ここはどうなのか？」という意見が児童から多く出るようになった。「わかる」・「できる」ことから気づけたときの「楽しさ」と学習への意欲につながっていた。

●導入と人物像を想像する練習の取り組みに時間を要したことにより、意見を交流した後、再度考えを深める時間が取れず、深い学びにつながる言語活動に至らなかった。

●児童の習熟度や特性に合ったワークシートができていなかったため、ワークシートの書く場所や書き方などがわからずに戸惑っている姿が見られた。



④ 大造じいさんの人物像を考えよう。

「大造じいさんとがん」

◆ 大造じいさんってどんな人？（小見出し）

大造じいさんは、

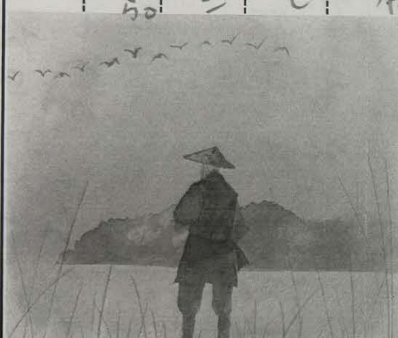
あきらめない

な人だと思います。

◆ そう考えた理由や根拠となる文章を用いて説明しよう！

そのように考えたわけは、

ぬまちでつりばりのけいやく
（二回）でしはいしをきいたけど
あきらめなかつた、五表たにした
つたけいやく
くもしはいし
たげとよし
らめなかつたから
だからです。



かんをつかえんよつとしてたがいのなま
たぶろしてしはいしをきいたがやらしいと思
たのがよかつたです。

（大）人物像は行どうかいわ気持の共感
文化したとから考えることができる。

あらすじ

時	場所	登場人物	出来事
今年	ぬまち	大造じいさん、がん	大造じいさんががんを連れてぬまちでつりをする。
その翌年	ぬまち	大造じいさん、がん	大造じいさんががんを連れてぬまちでつりをする。がんが病気を患う。
今年	ぬまち	大造じいさん、がん	大造じいさんががんを連れてぬまちでつりをする。がんが病気を患う。

大造じいさんの心情

いまいましい
うれしい
り（う）だ（感心）
満足良気分
ぐやしい
勇敢・尊敬
大切

1 年間の成果と今後の課題

1 年間の成果と今後の課題

1. 学力経年調査等の結果

以下に、学力経年調査の結果に見られた各学年の傾向や課題をまとめた。

1 年

- ・ 全国平均を上回っている（+1.9）・全国平均を上回らなかった（-3.7）
- ・ 「読む領域」でクラスの平均が 10%近く違う所から差が出ていると思われる。
- ・ 学年としては、「書く領域」について、全国平均より 3.7%低く、書ける児童と書けない児童の差がある。

2 年

- ・ 学級平均正答率が 89.1%で全国平均より 4.2%上回っていた。
- ・ 説明文の読み取りが不十分な部分が見られる。

3 年

- ・ 学力が両極端に分かれたが、全体的に安定した結果だったと思う。
- ・ 昨年度から引き続き取り組んできた読み取りの成果は、出てきていると感じる。しかし、漢字や言葉においては、課題が残る。
- ・ 叙述をもとに答える問題では、大阪市の平均を上回っていた。司会をたてて話し合う問題は、下回っていた。
- ・ アンケートでは「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」の項目は、校内目標 35%より上回り 39.2%だった。（市内 45,3）

4 年

- ・ 平均正答率が大阪市平均と 7 ポイント離れている。特に知識・技能が大きく差があるので、基礎の定着ができていないように思う。
- ・ 文章を読み通す力をつけなければならない。漢字、語彙力、作文など国語に関するそれぞれ基礎的・基本的な能力を高めないと、読解にはつながらない。

5 年

- ・ 漢字を正しく読む（学年 56.0 ◇ 市内 83.1）
- ・ 目的に応じて文章の情報を整理（22.0 ◇ 37.8）
- ・ 資料から読み取った事実を書いている（60.0 ◇ 75.0）
- ・ 語彙が不足しているわけではないが、文章になると、誤った使い方や認識をしている。
- ・ 文章をよく読んでいない。

6 年

- ・ アンケートで国語の内容がわかったという児童が減っている。

2. 1 年間の児童の様子からどんな力をつけたいか

- 基礎基本の力
- 漢字や言葉において知識をつけたい
- 正しく文章を読み取る力、表す力
- 文章を読み、必要な所、要点を読み取る力

漢字・言葉の知識

読み取り

- 文章を構成する力，考えを順序立てて書く力 書く
- 話型の揭示，朝の会等のスピーチの成果で授業での話す力は育っているが，書く力に課題が残る。
- 時間制限を設け，文字を正しく写しとることができるようにする。
- 自分の考えをもつ力，思考力・判断力・表現力 自分の考えを持ち話す
- ペアやグループで自分の意見をいう活動を1年間とおして行う。
- 自分の意見を伝えたり相手の意見を聞いて伝え合えあったりする活動はできるようになってきた。相手の意見に興味をもって耳を傾け疑問に思ったことを「訊く力」をより高めたい。 聞く
- 学習規律の確立「あたりまえのことをきちんとする」力をつけたい。
- 望ましい集団づくり

今後も、今年度の成果と課題をふまえ、「話す・聞く」能力、「書く」能力、「読む」能力の中の何に学年の課題があり、重点をおくべきかを考え、学校の研究テーマにそって基礎基本の力をつけていきたい。さらに、学校全体で系統立てて研究を進め、どの児童も「わかる」「できる」「楽しい」を実感できる授業を行い、主体的対話的で深い学びを実現させるため研究を進めていきたい。